





414  
A1005



經濟問答 卷之二

二等公制官正六位古澤 滋

澳國ハロニアレキサンドル、マシ、シーホルト

大藏少丞從六位土山盛有

對譯 對譯

大正十一年  
贈月

○第二編 國中一般ニ起ル所ノ交換

第一章 諸般職業ニ於ケル一般ノ旨趣目的

第八十六節 要ヲ得ル即チ必要物品ヲニ付テ、ニラシ

要ヲ得ルニ二種ノ方法アリ其一造化ヨリ直即、有様

ヲ得ル其二諸人ヨリ之ヲ得ル是レナリ第一類ハ之ヲ直即

ナル利得ト謂ヒ第二類ハ之ヲ居間ナル利得ト謂フモ可ナリ

第八十七節

職業トハ凡ソ要ヲ得ルノ一方法ニシテ其人ノ之レニ從事ス

ルヤ專一ノ有様ニ於テセザレバ則チ立ル有様ニ於テスル



トヲ謂フ而ノ田野ノ經濟ト云フモノアリ此ノ職業ノ其要用ヲ得ルニ付キ直即ノ有様ニ於テスルヲ以テ其目的トスル種類ト知ルベシ而又工藝ト云フモノアリ凡ソ職業ノ其要用ヲ得ルニ居間ノ有様ニ於テスル部分ニ屬スルモノト知ルベシ

第八十八節 田野ノ經濟

田野ノ經濟トハ田地ヲ耕作スルト牛羊其他ノ家畜ヲ牧養スルト庭園ヲ作ルト漁獵ノ事山林ノ經濟開鑛ノ事ヲ始メ其他ノ天造ノ物品地ノ内外部ニ在ルモノ又ハ水中若シクハ太氣中ニ在ルモノヲ直即ノ有様ニテ得ルトニ至ル迄都テ此内ニ包括セリトス人ノ右等職業ニ從事スルモノヲ稱シテエゴノミスト即チ經濟者ノ義ニシテ又之ヲ是等從事者ノ稱ニ用フ英ノアグリクルト云ト即チ是レナリ○下ニ此譯語ヲ導用シ以テ觀覽ヲ便ニス全ク自己ノ為ニ從事シ木ヲ曾シ他人ノ為ニ力役ニ服スルト日傭者ノ如クナルモノ非ザルナリ

第八十九節 工藝共商賣

凡ソ職業ノ居間ナル利得ニ屬セル種類ヲ別ツテニトスルトヲ得ルニ其一凡ソ他人ノ為ニ其仕事ニ服セルモノ其ニ凡ソ他人ノ為ニ品物ノ交換ニ從事セルモノ是レナリ第一類ハ之ヲ工藝上ノ管運者ナル等輩ト謂ヒ第二類ハ之ヲ商賣上ノ管事者ナル等輩ト謂フ

第九十節 工藝上ノ管事者ニ二種ノ等輩アリ

工藝上ノ管事者ニ二種アリ曰ク職人若シクハ工匠ノ等輩即チ他人ノ為ニ天造物ニ製造ヲ加ヘ若シクハ之ヲ具フルモノト謂曰ク不<sub>無</sub>孕<sub>益</sub>ノ等輩即チ他人ノ為ニ力役ニ服スルモノ僕婢其他ノ類是レナリ

第九十一節 甲職人ノ等輩

凡ソ所謂職人ノ等輩ノ類ニテタルモノ通常賃分ハ凡ソ左ノ



如レ即チ其從事スル所ハ天造物ニ製造ヲ加エレニ在リテ或ハ  
粗野ナル物品ニ最初ノ製造ヲ加エルモノ例ヘバ柔皮匠ノ類ニ  
非ザレバ則チ其物品ニ既ニ具ハリタルモノヲ第二次ニ受取り  
之レニ細エヲ加エルモノ例ヘバ製沓匠等ノ類是レナリ即チ称  
シテ「<sup>ラ</sup>ブリケートル製造者若シクハ「<sup>マ</sup>ニファクチュラー」又製造  
名トスルモノニ拘ハラザルノミナラス其他凡ソ是等ノ人ニハ  
他ノ商人工匠消費者等ノ為メニ其仕事ニ服スルカ又或ハ其元  
品ハ之ヲ其得意先ヨリ受取ルカ又ハ自己ニテ仕入レルカニテ  
之ヲ得意先ヘ供給スルカヲ問ハス都テ之ヲ職人トシテ更ニ區  
別無キモノトス但シ末段レ即チ元品ヲ自給スルモ仕入ノ場合ニ於  
テハ其人ハ又之ヲ商人ト謂フモ可ナルハ宜シク察知スベキ所  
ナリ

第九十二節 乙 不與ノ等輩

若夫レ不與ノ等輩ニ至テハ凡ソ其職業ニ從事スルニ心智上ノ  
カ若シクハ身體上ノカヲ以テスルモノニ拘ハラステ之ヲ適  
用スルナリ蓋シ經濟上ノ旨趣ニ於テ是等諸人ヲ區別スルニハ  
特トニ是等諸人ハ收入ヲ生出分配スルノ根源タリヤ否ヤヲ以  
テシテ更ニ其人ノ功德若シクハ爵位等ノ一世ニ於ケル如何ヲ  
以テセス故ニ政治家共給事小使等ヲ始メ陸海軍ノ士官共兵卒  
及ニ學者畫師彫工僕婢ノ如キハ皆之ヲ同一ノ等輩ト為スベシ  
第九十三節 高賣ノ等輩 甲 商人 乙 貸主 財本持主 又ハ資本家  
高賣上ノ管事者ヲ區別シテ左ノ如クスベシ曰ク貸主若シクハ  
財本持主即チ利息ヲ取りテ貸附ヲ為スモノ曰ク商人即チ商品  
ヲ仕入レテ之ヲ賣出シ以テ其利潤ヲ收ムルモノ是レナリ

第九十四節 財本持主ノ等輩ハ凡ソ何等品物ニ於ルニ  
ル「<sup>ユ</sup>」  
「<sup>フ</sup>」  
「<sup>ラ</sup>」  
「<sup>ク</sup>」  
「<sup>ト</sup>」  
「<sup>解</sup>」



一 卷第五十五節ヲ利益ノ仕拂アルニ付キ他へ付ケルモノニ  
レテ或ハ此ノリビエーヲラクトノ約期過了スルニ因テ同一ノ物  
ヲ元ノ如ク取戻ス下例へバ土地貸主ノ如クナルモノ又或ハ唯  
其同一ナル量數ヲ取戻ス下例へバ利息ヲ取りテ金ヲ貸スモノ  
、如キ等都テ此等輩ニ屬セリトス

第九十五節

予今職人ノ等輩ト不孕ノ等輩トヲ極精密ニ區別シタリト雖モ  
更ニ之ヲ左ノ二名稱中ニ包括スルモ亦可ナリ即チ其ノ凡ソ他  
ノ為ニカ役スル人且ツ因テ以テ所謂一國ノ輸入ニ於ケル根  
源トス其ノ二經濟即チ農事ノ職業以下單ニ農是レ天他ノ為ニ  
カ役スルモノニシテ一國ノ收入ニ於ケル根源タルハ一ナリ而  
シテ資本持主共商人ノ等輩ハ此内ヲ第一類ニ在ルヲ知ルベシ夫レ  
何人タリシモ苟モ社會ニ生存スルモノハ竊盜并乞丐ヲ除クノ

外部テ此部今ニ屬セザルヲ得ス故ニ往時一國ノ中經濟即チ農

下同ヲ除クノ外何人ノカ役カ果レテ生物上ニ關係アリト謂フ  
ベキヤトノ疑問ニ付キ多少ノ爭論アリタレ予今經濟ト云フ  
語ヲ把テ既ニ前段ハ十ノ旨趣ト爲ク片ハ則チ未タ必シモ前  
段ノ疑問ヲ顧ミルヲ待タザルベシ蓋シ注時ノ能ク論ハ全ク經濟  
謂ルニ非ズルノ但シ經濟ノ語ヨリモ更ニ生物者若シクハ生物上  
ノ等輩ト云フ語ヲ把テ之レニ命スル猶オ一層ノ妥當ヲ見レ  
足ルヲ畢竟凡百物品凡ソ職人ノ製造ヲ加ヘ資本家ノ付  
為シ及ヒ商人ノ交易ヲ為ス所ノモハ都テ前段經濟ノ生出ス  
ル所ニ非ザル無キナリトノ思考ヨリスルハ則チ寧ロ  
第九十六節 一般職業ニ於ケル原則  
一般職業ニ於ケル原則ハ之ヲ確定スル左ノ如シ  
第一 一人自己ノ為メニ經營スル所ノ便益ハ自カヲ諸人一



般ノ便益トナレル

凡リ何等ノ職業タリガモ其目的タルヤ一ニ從事者ノ其要用ヲ各自ニ得ルニ在ラザルハ無シ其便益ヲ得ル彌ク多ケレバ則チ是等諸人ハ彌ク繁昌シテ遂ニ充分ノ域ニ赴クヤ必セリ夫ノ關係ノ國ニシテ其人民苟モ世ニ奢侈アルトテ知ルモ、其要用ニ於ケルハ唯他ノ願要ヲ供辨スルニ因テ之ヲ得ルモノ、非ガハ無シ故ニ何人タリトモ苟モ正直ナル商賣等ニ從事スルモノハ固ヨリ決シテ他ノ人ヲ妨害スルモノニ非ス特トニ是レノミナラス其相互ニ要用ヲ交易スルト其各種職業ノ密通ナル關係及、奢侈ニ一種奇特ノ性質ヲ具有スルアルヨリシテ自カラ他ノ助ケヲ要セザレバ何事ヲモ為シ得ベカラザルモノアルヤ其結果遂ニ「社會諸人一般ノ幸福ハ人々各自ノ幸福如何ニ係ル」ト云爾ニ至テ極マルベシ

第九十七節

第三 凡百ノ「モノ」ポリ「專賣獨占」ノ義ニシテハ不正ノリトス

凡ソ一國諸人ノ富榮ヲ妨害スル所ノモノハ特トニ其人一種ノ方法若シクハ権力ニ依リ以テ自餘諸人ノ動作セル自由ヲ制限シ之ヲシテ強テ其意ニ滿タザル所ノ商品ヲ買收センノ若シクハ是等諸人ノ願要ヲ充ツルヲ抑止スル「即チ「モノ」ポリ」ニテ最トス是故ニ經濟學ハ常ニ是等ノ凡百種類ヲ痛斥シテ止マザルナリ

第九十八節

第三 職業ノ重ク自由ノ時代ニ在テ凡百ノ商賣始メテ各々其天然ノ平均ノ道ニ歸スベシ

一ノ職業取續キテ外ノ利益アルキ、則チ自然諸人亦競テ之



レト同一ナル職業、從事スルハ理勢、必然ナリ。而シテ其利益必  
ス衆多ノ人ニ分ケル。所アレバ則チ其人々ニ於ケルヤ必ス鮮  
少ナルベシ。是レ他無シ普通ノ定則即チ第六十四節ニ述ベタル  
所ハ如ク衆争競者、即チ競テ其物ヲ賣ル、其買手ヲ集メ得ル所ハ  
特トニ低價ニテ其物ヲ賣渡スノ事アルヲ以テスレバナリ。若又  
其利益タルヤ多少分ケル、所アリテ其收獲甚タ減スルハ則チ  
衆多ノ人ヲシテ又其從事セシ職業ヲ離レシノ依然其職業ニ  
在ルモノ僅々ノ數ニ止マリ於是乎又適當ノ平均ニ赴キ再ヒ左  
ノ定則ヲ確定スルニ至ルベシ。即チ凡ソノ職業ハ衆多ノ人ヲシテ  
之レニ從事セシムルアルモ勢ノ至ル所ニ至テ自餘諸人ノ同一ナ  
ル。職業ニ於ケル勉勵、職業ヲ妨害スル所無キニ至テ極マルト云  
爾是レナリ。

第九十九節

第四

職業ハ特トニ正理ト自由トニ因テ始メテ繁盛ナルベ

凡ソ人民ノ幸福ヲ毀壞シ一國ヲシテ疲弊起ツ能ハザルニ至ラ  
シムルハ不正ヨリ太甚シキハ無シ。夫レ臣民ノ所有物ナリ。權理  
ナリ。拳ヲテ以テ之ヲ其君主若シクハ執政大臣ノ專制ニ委シ取  
捨予奪一ニ其意ニ任カセシカ。此際誰レカ能ク身ヲ職業ニ委シ  
一意之レニ從事スルモノアラシヤ。是レ他無シ其偶々辛苦經營  
ニ因テ得ル所ノ果實アルモ或ハ殘虐不正ノ方法ヲ以テテ剝奪  
ニ値ハン。トテ恐ル、モノ所在皆然レバナリ。昔時羅馬ノ盛シナ  
ルモ遂ニ專制ヲ以テ滅亡シ。亞細亞洲中ノ富饒諸邦猶オ今日ノ  
衰微ヲ取ル所以ノモノ。豈ニ他アラシヤ。因是觀之。正理ナリ。安寧  
ナリ。自由ナリ。苟モ人民ノ幸福ヲ保護セント欲スルモノハ豈ニ  
此三者ヲ以テ一大基礎ト為サザルベシ。



第百一節

第五 凡百ノ商賣ニ於ケル大利益ハ常ニ小利益ノ成果ニ非ザルハ無シ

世或ハ好運機會ニ因テ俄カニ富ヲ致スモノ注々其人ニ乏シカ  
ラスト雖モ苟モ普通ノ定則ト通常ノ事故トヲ主トシテ之ヲ論  
ズレバ則チ凡ソ高賣上ニ於ケル大利益ハ常ニ小利益ノ整合ニ  
由テ成立ツモノトス而シテ此小利益ハ持トニ割輕者ノ怒セニス  
ル所タルノミナラズ夫ノ吝嗇者ノ如キハ常ニ心ヲ目前一時ノ  
細利ニ奪ハラルハヤ又曾テ之ヲ以テ他日ノ大利ヲ收ムル能ハ  
ザル也故ニ凡ソ職業上ノ要ハ他ニ在ラズ其嚴重ナル規則ノ  
精神ヲシテ極細微ノ部分ニ貫徹セシムルコト固ヨリ言フヲ侍  
タス又其人ノ心神常ニ不羈自由ニシテ既ニ目前一時ノ利ニ  
誘惑セラレスシテ更ニ他日ノ大利ヲ失フコト無キニ至テ極マル

再 8

ニシ

第百一節

第六 人ノ力役ニ從事スルヤ他人ノ為メニスルヨリモ自己

ノ為メニスルヲ以テ善シトス

凡ソ人ハ何事ニ依ラス苟モ自己ノ為メニナルコトアレバ其動作  
一層切實且ツ熱心ナルハ固ヨリ人性ノ自然ニシテ其力役ニ於  
ケルモ亦然リ故ニ他人ヲシテ我ガ力役ニ從事セシムルニ其  
令ニ正理共人道ノ須為義務ヲ顧ミザルトモ其人必ス自己ノ利  
益ヲ思フヲ以テ之ヲシテ同シク其利益ニ関預セシムルコトアラ  
シムルヲ要スベシ故ニ夫ノ奴隸ヲ驅役スルガ如キ其主人ノ散  
財タル他ノ自由職人ニ高價ノ賃銀ヲ拂フニ僱使スルヨリモ必  
ス多分ナリ何者茲ニ一ノ深察スベキ所アリ即チ奴隸ノ力  
役ヲ算定スルニ當リ其之レニ因テ得ル所ノ利益ハ果シテ幾許



ナルヤノ事是レナリ英國ノ新聞記者ノ如ク其甚ク自由ニシテ  
且ツ許多ノ給料ヲ享シモ遂ニ大ニ該國一般ノ繁盛ヲ裨補セ  
リ新聞記者ノ如ク此筆尤モ其自由ヲ極言論至ラザル所無シ  
ク其類ヲ見ザルモノ關係アリ故ニ云爾又其他ノ國凡ソ奴隸ノ制  
行ハレ其土地大抵薄命奴隸ノ耕殖ニ係ルモノハ依然其弊ヲ承  
ケ殆ンド沙漠ト一般ナルニ至ル以ヘアルカナ

第七

分業ノ法ハ甚ク便利ナリトス

凡ノ願要并奢侈ノ諸物品ヲ製作造出スルニ付キ多少ノ困難無  
キ能ハルヤ自カラ是等諸人ヲレテ其力役ノ内種々ニ分ツ所  
アラシムルト即チ事トナリンガ又継テ力役至細至小ノ部分ニ  
至ルニ弥々分カル所アレバ則チ其工事弥々充分ノ善是ヲ保  
ツベキトヲ發見シタルハ其事甚ク相遠カラザルナリ蓋シ人ノ

百九

常ニ同一ナル力役ニ従事スルモノハ其事ニ於ケル一層捷速  
ニシテ且ツ手際善キ方法ヲ發明スルト甚ク容易ナルモニシ  
テ斯ル方略ハ自カラ諸力役者ノ常ニ一業ヲ離レテ他業ニ就ク  
モノニ於テ其能ハサル所ニ係レリトス夫レ分業ノ便タル一ニ  
シテ足テス第一時間ヲ保ツトニシテ此時間ハ従前其一工業ヲ  
成就スルニ付キ一ノ力役ヨリ轉シテ他ノ力役ヲ執ル為メニ費  
ヤス所ノモノヲ始メ其他身振即チ振舞立場所并器械ノ是迄使用  
セシ所ト殊異ナルモノニ於テ費ヤス所ノ時間是レナリ第二ニ  
ハ分業ノ法ハ其監督者ヲシテ凡ソ職人ノ其工事ヲ執ルニ付キ  
行ハル所ノ成則ヲ一目ニテ見渡ストヲ得セシムルナリ「アダ  
ムスミス氏曾テ分業ノ便ヲ證スルニ針製造ノ事ヲ以テシテ  
云ク試ミニ一職人ヲシテ留針ノ製造ニ従事セシメシニ分  
業ノ法ヲ以テスレバ一日四萬八千本ヲ造出スルノ割合ナレバ



若し該法ヲ用ヒスルニ此十人ヲシテ各々一本家ノ留針製造ニ  
從事セシムルハ則ち是等諸人一日ニ製出スル所恐ラクハ百  
本ニ充タザルベシト

第二章 田野ノ經濟

注原 經濟ト云フ語ハ原ト人其所有物ヲ差配スルノ方法ト云  
フ義ニシテ更ニ之ヲ敷衍シテ一家ノ主翁共一國ノ理財上  
ニ於ケル管理者トスルトハ通例トナレリ但シ世ニ必ス最  
初ノ經濟者アリ然後自餘ノ諸經濟者因テ以テ存在スルモ  
ノレバ則チ一國中ニ必ス最初ノ經濟者ナルモノアルベ  
ク此經濟者ノミ獨リ能ク其物品ノ人々ニ於テ切實ナル  
願要アルモノ即チ衣食住ノ三者ヲ具備供給スルナリ勿論  
此三者ノ外ニハ寒國ニ於ケル焚物炭薪類ヲ提ルケザルニ別  
ニ之レニ添加シテ第四ノ願要ト為スベキモノハ曾テ之レ

百 10

有ラザルベシ要之吾人ノ因テ以テ生活ヲ得健康ヲ保ツモ  
豈ニ復タ他物アランヤ持トニ此三者ノミケルチハ氏理

學辭書中經濟ノ部

第百二章 田野ノ經濟ハ工藝共商賣ノ基礎ナリ  
夫ハ造化ハ吾人ノ生活上ニ於ケル凡百要用ヲ具備供給スルモ  
ナルニ今田野ノ經濟ヲ把テ前ニ云々スル所ノ意味トスルキ  
ハ則チ凡百職業ノ基礎トスベキモノハ此田野ノ經濟ニ非スル  
テ何ゾ職人ノ製造ヲ加ヘ商人ノ交易ヲ為スモ豈ニ獨リ該經濟  
者ノ搜索發達セル地面ノ產物ニ資スルニ非スヤ併シナガラ田  
野ノ經濟ニハ假令七種々ノ分派即チ漁獵其他多少在ル有ルモ  
經濟ノ點ヨリシテ之ヲ視レバ各種ノ内彼此稍別異ナル所アリ  
テ更ニ夫ノ農業ト云フテ以テ此田野ノ經濟ニ於ケル分派ノ  
名稱ト為シ因テ以テ此農業ノ原則ヲ説明スルヲ可トスベシ



第百四節 農業 必ス土地ナル所有物ヲ要ス

凡ソ文明諸邦、在テ農業ハ通例天造ノ物品ヲ搜索發達セルモノナルガ故ニ必ス土地ナル所有物ヲ要スルヲタリ此所有物ハ實ニ社會、護存スル所ニシテ未タ曾テ其政府ノ准許等ヲ以テ之ヲ分典シタルニ非ス豈ニ啻々此准許ノ謂ナラシヤ全ク是レヨリ一層高貴ナル權義即チ權理ニ基ツケリ何ヲカ高貴ナル權義ト謂フ予ノ意蓋シカ役ヲ指スナリ何ゾヤ此土地ナル所有物ハ大抵其人ノ頭初ニ之ヲ搜索發達シ其人又之レニ耕作ヲ加ヘ及ヒ之レガ播種ニ從事スルニ因テ之ヲ得ルニ非ザルハ無キガ故ニ政府ハ持トニ土地ナル所有物ニ因テ基趾ヲ立ツルモ土地ナル所有物ハ未タ曾テ其政府ニ因テ基趾ヲ立ツルニ非スト謂フベアレバナリ

第百五節 農業 必ス前入用ヲ要ス

凡ソ農ノ一旦平野ヲ得其農業ヲ始ルルヤ何等物品即チ其農業ヲ為シ得ル為ノニ必要ナル所ノ家畜并耕作器械ノ如キモノヲ前以テノ所有物ヲ為サザルヲ得ガレト又隨テ推知スベシ故ニ農ハ固ヨリ以テ夫ノ野蠻ナル獵徒ノ比ニ非ス即チ開化ナル牧畜者ニシテ其人ハ既已ニ所有物地ヲ指スヲ占有シ及ヒ頭初ヨリ身ヲ農業ニ委シ一意之ヲ經營スルモノナリ夫レ農夫ノ所有物即チ土地ニ於ケルヤ最初ヨリ多少ノ前入用ヲ要スルモノナリ此前入用ノ常ニ再ヒ新復スルモノハ之ヲ左ノ如ク定メテ可ナリ

第百六節 (甲) 土地ニ於ケル前入用

土地ニ於ケル前入用トハ凡ソ土地耕植ニ利アラシムル為メニ始終用ユル所モノニテ是等ハ重ニ開墾鑿凹濕地ノ水拔并家屋厩舎家畜衣屋、倉、建築ニ於ケル費用ナリ以上數者或ハ



農夫畜類ノ平居住ルトナリ或ハ農業上必要欠クベカラザルノ  
事ニシテ苟モ之レ無キハ則チ農業得テ從事スベカラザルナ  
リ夫レ誠經濟皆身親カラ是等鄙テノ事ニ於ケル力役ニ服従ス  
ルガ若シクハ其力役ヲ他ノ目的ニ向テ使用スルカニ於テハ勿  
論何レモ其利得アルモノタルヤ是レ即チ其給料トシテ之ヲ其  
農業ニ於ケル諸費用中ノ計算ニ組込ムハ固ヨリ當然ナリトス  
ベシ且夫レ凡ソ土地ノ所有者タルモノ、農業上ノ產物ヲ盛大  
ニスル為ノニ相踵テ從事シタル所ノ凡百改良ハ他ニ在ラズ即  
チ此土地ニ於ケル前入用ノ增長シタル所ナリ文明諸邦ニ在テ  
ハ其職業開進ノ致ス所農業又其繁盛ヲ極メタルニ此土地ニ於  
ケル前入用ハ恐ラクハ改良ノ事ヲ除キ大抵目下直接ニハ償還  
セシテ更ニ他日間接ニ該所有物土地ヲ購求スル代價ヨリシ  
テ之ヲ再贖スルトナレリ蓋シ田圃ノ員入ハ最初ノ開墾者若

12

シクハ修整ニ從事シタル人ノ権理ヲモ性セテ享有スルモノニ  
シテ與代リニ其土地ニ於ケル前入用修整ノ費用ヲモ供セテヨ  
前断ノ人ニ返却スル丁ナリ尤モ時勢ノ變遷ニ因テ金銀ノ價値  
下ニ赴ク隨テ農業ヲ起スニ千年以前ハ僅カニ銀千「ロ」ト一  
詳ラカテ一「ロ」即ニナリシガ當今ニテハ殆ンド六萬「ロ」ト  
ニ至ルハ世ニ屢ク在ル丁ナリ然レモ人若シ千年以前ニ於テ銀  
千「ロ」トヲ以テ其願要ニ向ヒ交換シ得タルモノ當今ハ六萬「ロ」  
ト多キニ向ヒ之ヲ交換シ得ルキハ則チ其價位ハ猶オ依然  
變ゼザルノ實得テ見ルベキノミ勿論所有者ニ依テハ其財產  
指テ地ヲ賣却シテ利益ヲ得ル丁其土地ニ於ケル前入用ヨリモ  
餘分ニ受領スルモノアリト雖モ此際更ニ一方ニ於テハ自餘所有  
者ノ之ヲ賣却スルモノハ更ニ損失ヲ取リテ其土地ニ於ケル前  
入用ヲ償ハガルモノアル丁知ルベシ故ニ其賣買或ハ貴ク或ハ



賤ク到底同一ナリ雖ニ要之若シ輔償ノ法ニ因リ之ヲ論  
定スルハ則チ凡ソ土地ノ價ヲ決定スルモノハ常ニ其土地ニ  
於ケル前入用ニ在リト謂テ可ナリ且チ土地ハ自餘商品ノ之レ  
ガ利益ヲ得ル為ニ頻リニ轉賣ニ從事スルモノト同様ニ思考  
セラル、ト至テ稀ナリトス畢竟斯ル不動産ハ真理ニ於テ多  
ク高賣上投機ニ華<sup>華</sup>三<sup>三</sup>十<sup>十</sup>八<sup>八</sup>節若シクハ破産ノ關係ヲ有セザル所  
ヨリシテ其賣買方ハ是等容易ニ起ラザル所ノ事故ヲ除キ大抵  
左ノ事状ニ於テ起生スルモノトス即チ其人農業ヲ企ツルニ因  
テ之ヲ所有セント欲スルカ又ハ其人何等ノ事故ヨリシテ其所  
持ノ不動産ヲ離棄セントスルカノ事是レナリ是故ニ苟モ通例  
ノ事故上ニ就テ之ヲ論定スルキハ則チ斯ル不動産ノ賣買ハ其  
土地ニ於ケル前入用并修整ノ價位ニ於テ全ク出入無キ所ノ價  
ニ於テ之レニ從事スルノ外他アルニ非ザルナリ

1913

第百七節 乙 保持ノ前入用

凡ソ農業ハ前断土地ニ於ケル前入用ノ外ニ前同様ノ前入用ヲ  
使用シテ得タル所ノモノヲ發達シ及ビ用立ツル為メニ保存ス  
ル諸費用ヲ要ス是レ即チ保持ノ前入用ニシテ諸家屋ノ修繕再築  
共農業器械ノ新調改正及ビ死亡畜類ノ代置ニ於ケル諸費用是  
レナリ以上數者ノ費用中家畜ノ死亡器械ノ紛失等ニ至テハ全  
ク偶然ノ變故ニ屬スルト信ニ然リ然レモ其人經驗ノ致ス所集  
器械ハ幾年之ヲ用エベキヤ又其牛馬ハ幾歳ノ久キ其使用ニ供  
スベキヤ又或ハ其家屋ハ若干星霜ノ久キニ堪エベキヤ等ノ事  
ヲ察識スルニ至テハ其事甚タ難キニ非ザルカ故ニ之レガ定算  
ヲ立テ此保持ノ前入用ハ一箇年平均ノ前入用金額ヨリ之レヲ引  
去リ非常ノ變故ヲ補填スルニ平生ノ幸利ヲ以テスル割合ニス  
ルカ又ハ或ル年ニ於テ此保持ニ於ケル前入用トシテ前断ノ事



故ニ於ケル必要ナル費用ノ全高ト同一ナルヲ若干年間保嶮  
會社へ差出シテ之ヲ請合ハシムルカ何レモ容易ナルベシ

第百八節 丙 毎年ノ前入用

最初農業ヲ創建スルノ際ニ於テセル所ノ右寺前入用ノ外ニ又  
毎年耕出ス所ノモノアリ即チ耕作ニ使用スル家畜ノ飼料凡百  
ノ種子耕作人共其家族及ヒ傭人奴婢ノ生活料共給金等是レナ  
リ此費用ヲ名ケテ毎年ノ前入用トシ是レ即チ毎年其次年ノ收  
穫ヲ得ル為メニ使用スル所ニ係レリ○但シ該經濟者即チ農業  
ノ主人ノ生活料ハ素ヨリ其人ノ地位ニ適當セザルベカラス此  
費用ハ其程限アリテ到底此人ノ其家族ト共ニ親カラ管理  
監督スルニ因テ得ル所ノ利分ニ超過セザルヲ要スベシ即チ此  
人若シ他人ヲシテ是等勤務ニ從事セシムルバ則チ之レニ拂フ若  
干トノ程限是レナリ又前段生活料ノ費用中ニハ右主人并其家

族ノ入用ナル諸物品必要并奢侈ニ屬スルモノヲ仕出ス商人製  
造人職人等ニ拂フ所ヲモ含有セルモノトス

第百九節 產出 甲 總產出

右寺前入用 此内ニカ役ヲ供セタル所ニテノ返報トシテ必ス造  
化ヨリ授典スル所ノ產出アリ是レ宜シク總產出トシテ總產出トノ  
ニニ區分スベシ所謂總產出トハ何品ニ依ラス凡リ其土地ナル  
所有物ヨリ毎年產出スル各種ノ果實ニシテ即チ野菜畜類若シ  
クハ礦物上ニ於テ造化ノ潤澤ニ貸給スル所ニ非ザレバ則チ人  
間技術ノ助ケニ因テ得ル所ノ諸物品是レナリ

第百十節 總產出中ヨリ引合リタル所ノ毎年ノ入用

是レハ即チ右總產出中ヨリ引合ケル所ノ該經濟者ノ毎年ノ入  
用ニシテ何レモ產出物中ヨリカ毎年若シクハ平均シテ左ノ雜  
費ヲ其入用ニ立テガレベカラス 其一 生活上ニ於ケル前入用 其



二、毎年ノ前入用是レナリ蓋シ田野ノ經濟者ニ於テハ必ス是等ノ費用アリテ若シ常ニ之ヲ再償シ且ツ第ニ次ノ收穫ニ向テ再ヒ之ヲ前入用ニ供セザルキハ則テ其農業盛スルヤ明ケン即テ其農業ヲ確立スル為メ及ヒ該經濟者共其家族ノ生活ニ向ヒ凡ソ高賣上ノ勤務若シクハ物品ニ向ヒ拂方ヲ為ス所ノ費用ニシテ到底其土地ニ於ケル前入用ノ助ケニ因テ得ル所ノ保存ニ於テ避クベカラザル所ノモノハ都テ此内ニ含有セリトス其三ハ則テ此總産出中ヨリシテ土地ニ於ケル前入用ヲ据替ヘルモノニシテ其人若シ此前入用ヲ恢復スルノ定見無キハ則チ豈ニ能ク其土地ヲ買入レ若シクハ之ヲ修整スルヲ之レ為シヤ凡ソ此買入代價前即チ土地据替ル共修整ニ用ヒタル資本ハ何レ他借スルニ非ザレバ則チ其人ノ儲蓄中ヨリ之ヲ供給シタルベシ第ニ一ノ場合借テ他ニ於テハ該經濟者ハ餘儀無ク其借入レタル金

完

額ノ利息ヲ拂ハザルベカラス而シテ是レ望シク其總産出中ニ於テ之ヲ恢復スベキナリ第ニ一ノ場合ニ於テハ其人若シ此資本ヲ他ニ貸スルニ必ス其利息ヲ生スルノミナラス又一方ニ於テハ其貸主ハ其力役ニ因テ收ル所ノ利得アルベシ是故ニ該經濟者ハ若シ其資本ノ利息共力役ヲ毎年若シクハ責メテ數年ノ平均ニ於テ恢復スルヲアル無クシバ為シテ能ク其資本共其力役ヲ土地ノ耕作ニ使用スルヲ得シヤ

第百十一節 (乙) 純産出

凡ソ總産出中ヨリ生活ノ費用(一箇年分)毎年ノ前入用共土地ニ於ケル前入用ヲ引去リタル所ノ殘餘ヲ名ケテ純産出トス是レ即チ所謂造化ノ賜物謂テ可斯ル産出ハ用ヨリ以テ之レ無カルベカラス畢竟該經濟者ハ前段記載ノ引去部分ノ外ニ又之ヲ以テ租稅ヲ拂ヒ且ツ手ヲ修整ノ未タ行届カザル所ニ下シ及ヒ其生



活上ニ於テ是也其自管理ニ付キ得ル所ノ一箇給料ヨリモ一  
層ノ快ヲ取り其他凡ソ總産出中ヨリ引去ルベキ計算ヲ立テガ  
リテ所ノ應々ニ使用スルヲ得ベシ故ニ純産出ハ固ヨリ以テ  
之レ無カルベカラザルヤ必セリ

第百十二節

田野ノ所有物ヲ貸ス

凡ソ土地ノ持主タルモノ若シ其土地ナル所有物ヲ身親カラ耕  
作セザルニ於テハ其人ノ便利ヨリシテ更ニ之ヲ他ノ人へ貸ス  
トトナルナリ凡ソ土地ナル所有物ヲ其持主ノ為メニスル也ノ  
單一ナル管理ニ付スルト即チ他ノ耕作セシテ其持主ハ曾テ其利  
得無シトス何者他人ノ為メニ勤作スルハ曾テ自己ノ為メニス  
ルニ如カザルハ人皆然レバナリ今若シ其地主タルモノ其田地  
ヲ他へ貸サンカ其人ハ此收入中ヨリ凡ソ其人ニ屬スル諸費用  
ヲ為メニ前断保持共毎年ノ前入用ノ收メザルヲ得ス何者

是等ノ費用ハ此人ニ屬スレバナリ而シテ毎斗ノ入用ナル部分ヲ組成スル

地租の分配

此雇作人即チ田地ヲ借キ屬スル毎年ノ費用ハ實ニ此經濟者ノ  
生活料即チ其人ノ管理ニ在ルキハ賃銀同様ナルモノハ此雇作人  
ニ屬スルモノトス尤モ一方ニ於テハ此雇作人ヨリシテ土地ニ  
於ケル前入用ノ利息トシテ其地主へ拂入ル、所アルナリ若夫  
レ純産ハ地主ト雇作人トノ間ニテ之ヲ分取スルト猶チ仲間ノ  
餘額ニ因リ一緒ニ營業スルモノ、如クニシテ一ハ其資本ヲ貸  
與シ一ハ其力役ヲ供給スルナリ

第百十三節 短期ノ貸地ハ不利ナリトス

凡ソ田地ヲ貸與スルニハ其期ヲ短クスルヨリ悪シキハ無シ蓋  
シ雇作人ノ僅々兩三年ヲ以テ其所持ノ一期トスルモノニ於テ  
ハ決シテ其田地ヲ改良ニスルト能ハス又之レニ從事スルトモ  
甚タ浮薄ナルトテ免レザルモノナリ何者其人ハ曾テ其果實ヲ  
收ムルノ望無ク且ツ之ヲ修整スルノ費額何レ是レハ再ヒ補償



活上ニ於テ是也其自管理ニ付キ得ル所ノ一箇給料ヨリモ一層ノ快ヲ取リ其他凡ソ總産出中ヨリ引去ルベキ計算ヲ立テガリテ所ノ廉々ニ使用スルヲ得ベシ故ニ純産出ハ固ヨリ以テ之レ無カルベカラザルヤ必セリ

第百十二節

田野ノ所有物ヲ貸ス

凡ソ土地ノ持主タルモノ若シ其土地ナル所有物ヲ身親カラ耕作セザルニ於テハ其人ノ便利ヨリシテ更ニ之ヲ他人へ貸ストナルナリ凡ソ土地ナル所有物ヲ其持主ノ為メニスル也ノ單一ナル管理ニ付スルト即チ他人ノ耕作セシテ其持主ハ曾テ其利得無シトス何者他人ノ為メニ動作スルハ曾テ自己ノ為メニスルニ如カザルハ人皆然レバナリ今若シ其地主タルモノ其田地ヲ他人へ貸サンカ其人ハ此收入中ヨリ凡ソ其人ニ屬スル諸費用ヲ支ツ為メニ前断保持并毎年ノ前入用ノ收メザルヲ得ス何者

是等ノ費用ハ此人ニ屬スレバナリ而シテ毎ノ年ノ入用ナル部分ヲ組成スル

地租の徴収

此雇作人

即チ田地ヲ借シ屬スル毎年ノ費用ハ實ニ此經濟者ノ

生活料

即チ其人ノ管理ニ在ルキハ賃銀同様ナルモノハ此雇作人ニ屬スルモノトス尤モ一方ニ於テハ此雇作人ヨリシテ土地ニ

於ケル前入用ノ利息トシテ其地主へ拂入ル所アルナリ若夫

レ純産ハ地主ト雇作人トノ間ニテ之ヲ分取スルト猶チ中間ノ

餘額ニ因リ一緒ニ營業スルモノ、如クニシテ一ハ其資本ヲ貸

與シ一ハ其力役ヲ供給スルナリ

第百十三節

短期ノ貸地ハ不利ナリトス

凡ソ田地ヲ貸與スルニハ其期ヲ短クスルヨリ悪シキハ無シ蓋シ雇作人ノ僅々兩三年ヲ以テ其所持ノ一期トスルモノニ於テハ決レテ其田地ヲ改良ニスルト能ハス又之レニ從事スルトモ甚タ浮薄ナルトテ免レザルモノナリ何者其人ハ曾テ其果實ヲ收ムルノ望無ク且ツ之ヲ修整スルノ費額何レ是レハ再ヒ補償



スベキモノトモル<sup>ル</sup>ニ於テ精細ノ計算ヲ立ツルヲ得ザレバ  
ナリ凡リ土地ノ下悪ニ赴クヲハ多クハ之レガ保存ノ費用ヲ省  
略スル所ヨリシテ起リ而シテ此費用トスベキモノハ此雇作人ノ  
動モスレバ得テ其私利ヲ嘗ム所トナルモノナリ例ハ今家畜  
ヲ供セテ雇作人ニ貸サンカ此雇作人ハ大抵家畜ノ飼料等ヲ省  
略シテ分取スル所アルヤ遠ニ田地ニ必要ナル肥糞ヲシテ又分  
取スル所アラシムルヤ必セリ供シ之レニ反シテ貸典ノ期ヲ一  
層長クスルキハ則チ其雇作人タルモノ其田地ヲ利シ之ヲ視ル  
ト猶オ自己ノ所有物同様タルヤ一層其保存修整ニ注意スル  
知ルベキナリ蓋シ土地ヲ貸シテヨリ凡リ五十年以未其増殖シ  
タル天然ノ産物ニ於ケル代價ヲ金錢ニ積リ其貸貸ト為シ當今  
ニ至テ其割合往時ニ及バガルトアルキハ是レ則チ其貸地ノ期  
ヲ短クシタルノ弊ニシテ其農業廢頽セルヤ必セリ

第百十四節

エン<sup>ク</sup>存<sup>ク</sup>イ<sup>ク</sup>ク<sup>ク</sup>永<sup>ク</sup>期<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>貸<sup>ク</sup>典<sup>ク</sup>

然リト銀<sup>ク</sup>田<sup>ク</sup>地<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>五<sup>ク</sup>十<sup>ク</sup>箇<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>若<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>ク<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>夫<sup>ク</sup>レ<sup>ク</sup>ヨ<sup>ク</sup>リ<sup>ク</sup>以<sup>ク</sup>上<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>貸<sup>ク</sup>典<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>付  
スルキハ則チ首<sup>ク</sup>メ<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>金<sup>ク</sup>銀<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>價<sup>ク</sup>位<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>於<sup>ク</sup>ケ<sup>ク</sup>ル<sup>ク</sup>普<sup>ク</sup>通<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>程<sup>ク</sup>度<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>非<sup>ク</sup>ザ<sup>ク</sup>ル  
所以<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>思<sup>ク</sup>察<sup>ク</sup>セ<sup>ク</sup>ズ<sup>ク</sup>ン<sup>ク</sup>バ<sup>ク</sup>アル<sup>ク</sup>ベ<sup>ク</sup>カ<sup>ク</sup>ラ<sup>ク</sup>ス<sup>ク</sup>蓋<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>此<sup>ク</sup>場<sup>ク</sup>合<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>於<sup>ク</sup>テ<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>宜<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>ク  
其<sup>ク</sup>産<sup>ク</sup>物<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>就<sup>ク</sup>テ<sup>ク</sup>其<sup>ク</sup>貸<sup>ク</sup>地<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>價<sup>ク</sup>位<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>定<sup>ク</sup>ム<sup>ク</sup>ベ<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>又<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>其<sup>ク</sup>人<sup>ク</sup>若<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>金<sup>ク</sup>錢<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>欲  
スレバ<sup>ク</sup>其<sup>ク</sup>貸<sup>ク</sup>地<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>金<sup>ク</sup>錢<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>以<sup>ク</sup>テ<sup>ク</sup>拂<sup>ク</sup>フ<sup>ク</sup>ト<sup>ク</sup>ス<sup>ク</sup>ル<sup>ク</sup>モ<sup>ク</sup>可<sup>ク</sup>ナ<sup>ク</sup>リ<sup>ク</sup>但<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>是<sup>ク</sup>レ<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>  
三年<sup>ク</sup>若<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>ク<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>五<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>間<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>割<sup>ク</sup>合<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>平<sup>ク</sup>均<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>テ<sup>ク</sup>時<sup>ク</sup>々<sup>ク</sup>其<sup>ク</sup>金<sup>ク</sup>高<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>改<sup>ク</sup>新<sup>ク</sup>セ<sup>ク</sup>ザ  
ルヲ<sup>ク</sup>得<sup>ク</sup>ス

第百十五節

凡<sup>ク</sup>ソ<sup>ク</sup>經<sup>ク</sup>濟<sup>ク</sup>者<sup>ク</sup>タル<sup>ク</sup>モ<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>其<sup>ク</sup>田<sup>ク</sup>地<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>如<sup>ク</sup>何<sup>ク</sup>ナル<sup>ク</sup>種<sup>ク</sup>類<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>果<sup>ク</sup>實<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>播<sup>ク</sup>植<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>テ<sup>ク</sup>然  
ル<sup>ク</sup>ベ<sup>ク</sup>キ<sup>ク</sup>ヤ<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>決<sup>ク</sup>定<sup>ク</sup>ス<sup>ク</sup>ル<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>到<sup>ク</sup>底<sup>ク</sup>其<sup>ク</sup>近<sup>ク</sup>隣<sup>ク</sup>地<sup>ク</sup>方<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>於<sup>ク</sup>ケ<sup>ク</sup>ル<sup>ク</sup>現<sup>ク</sup>在<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>需<sup>ク</sup>要  
多<sup>ク</sup>キ<sup>ク</sup>モ<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>從<sup>ク</sup>フ<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>可<sup>ク</sup>ホ<sup>ク</sup>ス<sup>ク</sup>且<sup>ク</sup>ツ<sup>ク</sup>巧<sup>ク</sup>者<sup>ク</sup>ナル<sup>ク</sup>經<sup>ク</sup>濟<sup>ク</sup>者<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>僅<sup>ク</sup>々<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>二<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>ノ<sup>ク</sup>  
利<sup>ク</sup>得<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>汲<sup>ク</sup>々<sup>ク</sup>ト<sup>ク</sup>シ<sup>ク</sup>テ<sup>ク</sup>更<sup>ク</sup>ニ<sup>ク</sup>將<sup>ク</sup>來<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>定<sup>ク</sup>セル<sup>ク</sup>實<sup>ク</sup>利<sup>ク</sup>ヲ<sup>ク</sup>亡<sup>ク</sup>失<sup>ク</sup>ス<sup>ク</sup>ル<sup>ク</sup>ト<sup>ク</sup>アル<sup>ク</sup>無



レ蓋シ何等ノ物品タリトモ其常ニ再生復産シ易キモノト其物品ニ向テ交換ヲ為スニ因テ以テ得ル所ノ他物常ニ其人ノ物品ヨリモ多量ナルモノトノ如キ是レ即チ其人ノ最大利得タルヲ知ルベシ

第百十六節 誠經濟者ニ利アルト最モ切要ナルモノ  
誠經濟者ニ利アルト最モ切要ナルモノハ左ノ事ニ於テ自由ヲ得セシムルニ在リ即チ其土地ナル所有物ニ於ケル一切ノ部分ハ常ニ之レガ賣買等ニ從事シ以テ種々ノ修整ヲ謀リ及ヒ凡百事況ノ發現スル所ニ應シテ其便益ヲ收ムルトテ得セシムルト是レナリ

第百十七節

自己ノ所持ニ在ル限界ノ分即チ宅裏ノ田園等ハ誠經濟者最モ應サニ其勉強注意ヲ要スベキ所ナルベシ是レ少小ノ利得ヲ積テ

大數ニ至リ以テ大利ヲ得ルト凡百ノ職業中未タ農業ノ如キモノハアラザルナリ蓋シ土地ハ間斷無ク何等ノ力役若シクハ注意ヲ要スルモノニシテ且ツ其要スル所ノ力役ハ之ヲ其因テ以テ得ル所ノ利得ニ比スレバ未タ必スシモ過多ナルニ非ザルナリ益シ農ハ四季ニ遇フ毎トニ常ニ新規ノ服役ヲ要シ而シテ其經濟者タルモノ苟モ其業ニ盛昌ヲ欲セバ豈ニ片時モ閑暇休息ノ時アルベケンヤ

第三章 工藝

第百十八節 工藝ニ奢侈ト文明開化トノ成果ニシテ天然ノ産物ノ價位ヲ増加スルモノナリ

夫レ奢侈行ハルハノ時ニ當テハ文明諸邦ノ人民タルモノ所謂三區界詳第一卷第五十節ノ産物ヲ使用スルニ造化ヨリ授ケラレタル儘ノ形態ニテ之レニ從事スルト至テ稀レナリ夫ノ木材ヲ



把テ新トスルガ如キモ豈ニ具備無キモノトセンヤ何者是レ既  
ニ鋸割裁断スル所アレバナリ蓋シ諸物産中十ノ八九ハ吾人ノ  
使用ニ造スル迄ニ多少若シケハ種々ナル諸職人ノ手ヲ経タル  
モノ居多ナリトス即チ吾人用エル所ノ衣服ハ之ヲ紡シ之ヲ織  
リ之ヲ晒シ之ヲ剪ルノ徒ヲ始メ其他染物師裁縫師等相踵テ此  
衣服ヲ具備スルノカ役ニ服スルモノ勝テ計ラベカラス是等職  
人ハ各々其粗野ナル産物品ニ於テ其必要ナル價位ヲ増加  
スルガ故ニ古等産物ノ代價ハ常ニ粗野ナル産物ノ價位ヨリモ  
多ク超過スルモノナリ若夫木材ノ小木匠ノ手ニ在ルヤ其價  
位僅カニ一弗ニ過キスト雖モ苟モ之レニ製作ヲ加ヘ椅子其他  
ノ什器ト為スキハ則チ殆ンド十倍ノ代價ヲ生スルニ至ルベシ  
アラバント白耳義ニテハ粗野ナル麻布ノ價僅カニ一弗ナルニ  
其職人ノヲ以テ繡物ヲ製シ常ニ七百弗ノ價ヲ得ルト云爾

第百十九節 工藝上ノ産物ノ代價ヲ以テ如何ナル物ヲ恢復ス

ベキヤ

凡ソ工藝上ノ産物ノ代價ハ須ラク償還セザルベカラズ第一粗  
野ナル産物ノ代價ニ於ケル費用第二製造者ノ給金はレハ其人  
自己ノカ役ニ向ヒ所得スベキモノ共其人ノ指揮ヲ奉シテ働キ  
タル職人へ拂フタル分第三前断金額ノ利息是レハ其製造者タ  
ルモノ粗野ナル産物ノ代價トカ役ノ價位ヲ将来ノ買手へ前貸  
シタルト同様思考シタルモノニシテ假令ヒ其人自己ノ貯金ヲ  
以テ之レニ充ツルニセヨ又ハ此資本ヲ他借シ以テ其粗野ナル  
産物ノ買入并製造ニ従事スルニセヨ其人ハ此二者ノ景況ニ應  
ジテ是等金額ノ利息ヲ其計算ニ立ツルヲ得若シクハ立テザ  
ルヲ得ザルハ猶オ田野ノ經濟者ガ土地ナル所有物ノ総産中  
ヨリ其土地ナル前入用ヲ引去ルト同一ノ理由タリ且ツ製造者



ハ其給金ノ身現カラ從事セル力役ニ向テ既ニ受領シタル分共  
其人ノ未ダ直チニ受領セザレ分ハ又同シク之ヲ其人ノ一資本  
ト思考スルモ敢テ不可ナルト無シ

第百二十節 工藝上ノ產物ノ廉價ナルハ何ニ由テ然ルヤ  
凡ソ製造者ノ其工藝ヲ盛昌ニスルニハ到底其產物ノ良好ナル  
ト其代價ノ賤下ナルトノ度位如何ニ由テ然ルナリ夫レ一商品  
ノ價廉ナルモ只管吾人ノ願要ヲ充ツルニ充分ナラス若シクハ  
持久ナラザルニ於テハ更ニ自餘物品ノ其價稍高貴ナルモ前  
物品ヨリハ一層欠シキニ堪ヘ且ツ充分ナルモクニ及ハザルハ  
固ヨリ論ヲ待タザルナリ故ニ製造者タルモノハ其工藝上ノ產  
物ヲ供給スルニ自餘製造者ノ產物ト良好ノ度位ヲ同クシ而シ  
彼レヨリハ一層ノ廉價ヲ以テスルニ於テハ此製造者ノ利得勝  
テ計フベカラス是レ他無シ其人ハ其得意先ヲシテ之レニ歸向

ヒシムルト太甚シケレバナリ供シナガラ如此キ廉價ヲ以テ斯  
ル方略ヲ達スルニハ多少根據スル所又自カラ在ル有リ即チ其  
元品ヲ始メ器械道具并分業ノ法及ヒ其製造所へ元入レシタル  
所ノ資本ニ至ル迄是レナリ

第百二十一節 甲 粗野ナル元品

粗野ナル元品ヲ得ルニ廉價ヲ以テシ且ツ其性質ノ良好ナルノ  
事實アルニ由テ其之ヲ以テ製造シタル產物ニ關係ヲ生スルト  
太甚シ糊製造所ノ如キ其込傍ニ穀物ノ生スルト無ク又ハ其運  
輸ヲ便ニスルノ河在ラザル以上ハ其保存得テ謀ルベカラス又  
一所ニ於テ織物商賣所ヲ創建セントスルニ其織糸ハ之ヲ阻遠  
ノ地方ヨリ運致セザルヲ得ステハ誰アリテ之レガ創建ニ從  
事センヤ要之粗野ナル元品ノ運輸彌々困難ナレバ則チ之ヲ製  
造シタルノ後彌々損失ヲ招クナリ蓋シ其物品彌々高價ナレバ



則チ其製造者、隨テ其利ヲ得ル<sub>一</sub>彌<sub>一</sub>寡<sub>一</sub>ナリ何者其人ノ得  
意先タルモ、去テ自餘製造者ノ右等困難ノ下ニカ役セズレテ  
其物品ヲ賤價ニ付スル<sub>一</sub>ヲ得ルモノニ就キ以テ其需用ヲ辨ス  
レハナリ○夫レ然リ故ニ何レノ地方ヲ問ハス其地方ニ在ル所  
ノ製造所ハ自餘製造所ト同一ノ利得ヲ以テ之ヲ創建スル<sub>一</sub>ア  
ル能ハザル<sub>一</sub>及ヒ世界各國都テ同一ノ職業ニ適當セザル所以  
ノ事復タ以テ徵スベシ醋ノ製造既ニス<sub>一</sub>ウ<sub>一</sub>デンニ於テスル<sub>一</sub>ハ  
能ハス又人ノ能ク鱈魚ノ魚卵製造スル<sub>一</sub>モ<sub>一</sub>ラヲ魯斯亞若<sub>一</sub>ク<sub>一</sub>ハ  
日耳曼ニ送致スル<sub>一</sub>無キハ蓋シ是ヲ以テノ故ナリ<sub>一</sub>是等元品ノ  
其地方ニ限リ又餘國ノ得テ之レガ製造所ニ從事スベキ所ニ非ザルトノ意  
第百二十二節 **乙 器械**  
器械ノ製造ニ於ケルヤ其緊要ナル太甚シト謂ッベシ何者其能  
ク手工上ノ力役ヲ省減スルヲ以テナリ蓋シ器械ノ此カ役ヲ省

減スル<sub>一</sub>彌<sub>一</sub>甚<sub>一</sub>ケレバ則チ其工藝上ノ產物ヲシテ彌<sub>一</sub>廉<sub>一</sub>價  
ノ割合ニ至ラシムルハ固ヨリ言ヲ待タス凡ソカ役ノ必ス器械  
ノ作用共同一均齊ノ成績ヲ要スルモノハ之ヲ他ノカ役ノ手ヲ  
以テ從事スルモノニ比スレバ其善且ツ優ナルノミナラス又其  
工事ヲシテ潤澤ニ成就セシムルハ獨リ器械ニ非ザレバ不可ナ  
リトス故ニ苟モ製造所ヲ盛昌ニセントスルニハ第一其製造所  
ニ應ズル器械ノ良好ヲ選フニ在リ而シテ其外又其器械ヲ得ル<sub>一</sub>ノ  
簡便ナル<sub>一</sub>ト其能ク恰好ノ有様ニテ保存ニ堪ヘタル<sub>一</sub>トノ二  
事アリトス  
第百二十三節 **丙 分業ノ法**  
分業ノ法ノ便利ニ付テ前條<sub>一</sub>第百論示セル所ノ考按ハ此工藝上  
ニ於テ特トニ其然ルヲ見ルナリ所謂分業トハ一ノ產物ヲ製造  
スルニ種々ノ人ヲ以テ各々其事ニ服セシムルノ謂ニシテ凡ソ



カ役ハ省畧シタル上ニ又之ヲ分ツテ彌ク甚レケレバ則テ其職  
人ハ一時ニ其物ヲ造出スルヲ彌ク多カルベシ隨テ其造出ハ物  
ハ又彌ク賤價ニ呈ルヤ必セリ是故ニ製造所ハ苟モ其地方ニ在  
ル手工職人ノ給金高貴ナルト又職人ノ内ニテ之ヲ分ツベキノ  
徒ニ乏シキト及ヒ器械ヲ以テ人力ニ代エルノ便ヲ得ガル等ノ  
場所ニ於テハ到底之ヲ保存スルヲ得ガルナリ

第二百二十四節 (丁) 製造所ニ元入レタル資本

凡ソ製造主人甚タ富ムキハ則テ其人其事業ニ使用スル所ノ資  
本隨テ彌ク多ク其人ノ力役又彌ク廉價ナルモノナリ夫レ此資  
本ハ徒ラニ他ヘ貸附ケテ利息ヲ取ルヨリモ其利益多カラザレ  
バ其人ハ決テ之ヲ製造所ニ用エルヲ為サバ爾ヤ明ケレ蓋シ  
其人ハ其製造所ヲ身親カラ管理スルニ付テノ報酬丈ケハ如何  
シテモ之ヲ受領スルニ相違無カルベシ但シ今若シ巨富ノ製造主

人ニシテ其事業ニ使用スルニ凡ソ十倍程ノ許多ナル資本ヲ以  
テシ之レニ因テ收ムル所ノ利益通例ノ利益外ニ凡ソ百分ノ一  
ニ及フキハ其人ハ自身管理上ノ力役ニ向テ善ク拂ハレタルト  
スルト夫ノ貧困ナル製造主人ニシテ其利ヲ收ムルト其人通例  
ノ利息外ニ百分ノ六ニ及フモノニ愈サルベシ而シテ此別段ナル  
百分ノ一アルキハ則テ其人ハ其資本ヲ此製造所ニ入レ置クト  
一層永久ナルハ當然ノ理勢ナルベシ且ツ例ヘバ其人其元品并  
製造品ヲ賣ルニ唯七分ノ利益ヲ收ムルモノハ他ノ一割二分ノ  
利益ヲ收ムルモノヨリハ現ニ五分丈ケノ廉價ヲ以テ之ヲ供給  
スルノ理由ナルガ故ニ乙ノ其得意先ニ於ケルヤ甲ヨリハ餘計  
ニ之ヲ失フノ實得テ見ルベキノミ

第二百二十五節 (戊) 工藝ノ自由

凡ソ製造者ヲシテ其元品ヲ買入レルト并其製造品ヲ賣出ス



及ヒ至テ廉價ニシテ且ツ伶俐ナル職人ヲ撰擇スルヲ等ニ付テ  
其自由ヲ得セシメ聊カモ妨得スル所無キハ則チ其製造所ハ  
其物品ヲ造出スルヲ彌々多カルベシ蓋シ工藝ハ成丈ケ其制限  
ヲ鮮ナクスルニ在リ則チ其工藝ノ便利勝テ計ヲベカラザルナ  
リ  
第百二十六節 各種カ役ノ給料ノ割合ニ於ケル定則  
凡ソ諸カ役者ノ給料ハ或ル等輩ノカ役者タルモノ、其カ役ニ  
従事スルノ際其人ノ地位ニ應シテ消費スル所<sub>付</sub>即チ衣食住ニ  
状態如何ニ因テ規則立テラル、ヲ常トス其給料ノ割合ニ於ケ  
ル定則ハ之ヲ左ノ如ク説クモ可ナリ即チ或ル職業ノ給料ニ於  
ケル中央限界ハ該職業者ノ其カ役ニ従事スルノ際消費スル所  
如何ノ中央限界ニ準スル是レナリ此定則ヤ實ニカ役ノ一般代  
價ヲ立定シ且ツ其旨趣タル特トニ職人ノ大數ニ就テ言ヲ立テ

更ニ各職人銘々ニ就テ之ヲ言フニ非ス畢竟職人ノ内ニテ其仕  
事ニ捷キモノアリ遅キモノアリ又上手アリ下手アリ又或ハ其  
生計ニ於テ儉約ナルモノアリ豪華ナルモノアリ其他貧者富者  
ノ別アルガ如キ苟モ各人銘々ニ就テ之ヲ論スルハ未タ必シ  
モ矛盾無キ能ハスト雖モ若シ或ル等輩ノ職人ヲ合セテ一大職  
人ト為シ且ツ其合聚シテ消費スル所ハ平均シテ其カ役ニ應シ  
及ヒ其消費スル所ニ應シテカ役スルトト思考スルニ於テハ果  
シテ其然ルヲ知ルベキナリ且ツ諸職人ノ内ニテ一人一弗ヲ貯  
蓄スルモノアルモ之ヲ他ノ一人ニテ浪費スルモノナラン彼レ  
聚ムレバ此レニ散シ此レニ出ツレバ彼レニ入ルト原ト事物ノ  
自然ニ基ケリ故ニ若シ職人ニシテ其利ヲ得ルト其消費スル所  
ヨリ寡少ナラシムルヤ則チ其人ハ其職業ニ因テ生存スルヲ  
能ハザルヤ其勢必ス當サニ他ノ職業ヲ創始セザルヲ得ザルナ



リ若又其人因テ以テ其消費スル所ヨリ餘計ニ利ヲ得ルハ則チ更ニ其力役ヲ廉ニシ唯其等輩ニ適應シタル丈ケノ生計上ニ於テ要用ナル分ヲ其得意先ヨリ受領シテ止ムベシ於是乎其人ハ之レガ為メニ巴ムヲ得スシテ其給料ヲ割合ニ應シ賤下スルニ至ルベシ○人或ハ言ハン「同業ノ職人タルモノ其人ノ力役ニ向ヒ拂ハル」所ノモノ終始依然トシテ其人ノ消費スル所ニ超過スルト云フ「ハ事宜ニ因リ之レ有ル」トナラスヤト然レモ斯ル事故ノ起ルニ當テハ前條說示セル定則全ク總括シテ言ヲ立テタル所ノ如ク他ノ一方ニ就テ之ヲ思考スレバ其反對ノ事頗リニ起ル所以ヲ察セシムバアルベカラザルナリ何ヤ即チ其職人ハ其利ヲ得ル「其消費スル所ヨリモ寡少ナル」ノ事是レナリ夫レ然リ故ニ夫ノ鍍鈕ヲ製造スル職人ノ如キ一時是等製造品ヲ以

テ衣服ヲ粧フノ風流行スルニ因リ多少該品ノ需用ヲ起シ是等職人ヲシテ大ニ其富ヲ致サシメタルモ一朝其流行ノ止ムヤ否ヤ直チニ其利ヲ得ザラシムルニ至レルガ如キ是レ其一證ニシテ又茲ニ一ノ更ニ思察スベキモノアリ即チ此一時ノ利得アルヤ否餘職人ヲシテ忽チ之レト同一ノ職業ヲ採用セシメ及ヒ是等諸人ノ競争アルヤ其利得ヲシテ減少セシムルニ至ルノ事是レナリ且ツ又假令ヒ是等利得ハ自カラ依然永續スル所アリテモ「ボリ」ノ方法ヲ以テ他ノ是等便利ナル高業ニ從事スルト「防護スルトセンカ」則チ斯ル特許ヲ蒙リシ職人ノ等輩ハ必ス其奢侈ヲ增長シテ其人ノ富實ナル收入ノ割合ニ及ヒ而シテ其消費スル所ハ隨テ相匹敵スルニ至ルベシ要之一般ノ人其能ク儉約ニ因テ富ヲ致スモノト又豪華ヲ以テ之ヲ失フモノトニ至テハ蓋シ稀少ニシテ其十ノ八九ハ大抵其利ヲ得ル所其消費スル



所ニ應ニ及ヒ其消費スル所ハ其利ヲ得ル所ニ應スルモノナリ  
是故ニ職人ヲ合セテ一大職人ト為シテ之ヲ論スルキハ則チ是  
等職人ノ消費スル所ハ恰モ彼等ノ利ヲ得ル所ニ應シ及ヒ其利  
ヲ得ル所ハ又其消費スル所ニ應スル所以ノ事復タ以テ類推ス  
ベキナリ

第百二十七節 商品ノ代價ハ賃銀ノ昂低ニ因テ感觸ヲ為ス  
夫レ職人ノ賃銀ハ一ニ商品ノ代價ニ於ケル割合ニ應シテ或ハ  
騰貴シ或ハ低下スルモノニシテ是レ即チ其職人ノ消費上所要  
セル商品ノ量數如何ニ由テ規則立テラル、所以ノ事ハ右等ノ  
考察ヨリシテ其然ルヲ知ルニ足レリ今其一例ヲ擧ケンニ小麥  
一斗ノ代價一タトレ<sup>日耳曼ノ貨幣量名ナリ</sup>ニ俄カニ騰貴シテ二タ  
トレ<sup>ニ至ラン</sup>キ其關係ノ及フ所従前一タトレ<sup>ルノ</sup>皆モ亦隨  
テ騰貴シテ遂ニ二タトレ<sup>ルノ</sup>多キニ至ル程ノ事ハ曾テ之レ有

ラガル所ナリト雖モ此麥價ノ變化ヨリシテ左ノ成果ヲ生スベ  
ク即チ吾師ノ内其家族ト共ニ消費スル所ノ飯料是迄毎日二斗  
宛ナリシモノハ爾後更ニ毎月二タトレ<sup>ル宛ノ</sup>入用ヲ増加シ之  
ヲ毎日ニ割付クレバ二タロスセン<sup>又十日耳曼ノ貨幣量名ニシテ</sup>  
モ換フル宛ニ當ルナリ然レキハ此吾師ハ其仕事ニ服従セル日毎  
トニ従前ヨリモ多キ<sup>一タ</sup>ロスセン程ノ利ヲ得ガルベカラズ  
而シテ其人毎日一斗宛ス<sup>吾</sup>ヲ製シ其代價一タトレ<sup>ルト</sup>スレバ一  
斗ニタトレ<sup>ル</sup>ノ増加ヨリシテ皆一足ノ代價ハ俄カニ騰貴シテ  
二タトレ<sup>ル</sup>ニロスセンニ至ルガ如キ是レナリ

○第四章 借料共利息

第百二十八節 資本家又ハ財本持主共資本

資本家トハ凡ソ諸人ノ利息ヲ取リテ金錢ヲ貸スモノハ名義ナ  
リト雖モ經濟學ニ於テハ凡ソ物品ノ消費シ盡サバルモノニ



他へ譲典シテ之ヲ使用セシムルハ都テ之ヲ資本同様思考ス  
下ヲ得ルモノトス是レ他無シ是等物品ハ變シテ金錢ト為ス  
ヲ得ルモノナレバナリ

第百二十九節 利息ノ昂低ニ於ケル定則

夫レ利息ヲ計勘スルニ年ヲ以テシ即チ一箇年ニ付キ且ツ毎百  
若干其即チ元金ヲ百分レテト計勘スルハ吾人ノ慣用スル所ナリ  
益シ利息ノ物タルヤ他ニ非ズ持トニ其貸金ハ對シタル給料タ  
ルニ過キガレ故ニ其昂低アル下又一般物價ノ常道ニ準ス  
モノナリ故ニ利息ノ割合ヲ確定スルニハ或ル時際共或ル場所  
ニ於テ貸出サントスル資本ノ量数ト之ヲ借ラント欲スル所ノ  
需要トノ間ニ成立ツタル關係如何ヲ以テ其定則ト為スナリ  
第百三十節 利息ノ割合ハ保固保堅スベキノ意如何ニ感觸  
ヲ為ス

利息ノ割合ハ又其負債者即チ借主トノ供給セル保固如何ニ因

其感觸ヲ為スナリ何者若シ其債主タシモノ其資本ヲ且負債

者相手ニ込失セシトテ恐ルハキハ則チ其人ハ此危難ニ向ヒ何

等報酬即チ諸合料又ハアルニ非ザル以上ハ豈ニ能ク甘シテ

之ヲ踏ムトテ之レ為キヤ其危懼スル所彌々甚シケレバ則チ

其報酬彌々大ナルハ理勢ノ自然ナリ但シ此法ハ素ヨリ一般ノ

負債者ヲ概シテ之ヲ適用スベキニ非ズ畢竟苟モ信用アル負債

者ナレバ曾テ是等報酬ヲ拂フ下無ケレバナリ且ツ此報酬ハ自

カラ其性質アリテ即チ以テ之ヲ取リ且ツ其多寡常數無キノ謂

夫レ利息ト大ニ異ナル所アリ蓋シ利息ハ通例信用アル負債者

ヲ總括シタル所ノ場合ニ於テ本末ノ定則ヲ以テ取極ノタルモ

第百三十一節 資本ノ種類

ノトス



凡ソ人ノ借ラント欲スル所ノ資本ハ未タ必シモ其金錢ヨリ成  
立ツタル所ノモノニ限ラザレナリ茲ニ人アリ家屋ノ建築ニ於  
テ必要ナル物品材即木類ヲ信任上ニテ他ニ供給スル所代即未取  
ヲ貸置クテ之アルガ如キハ是レ即チ資本ヲ貸附クルノ事ニシテ  
猶オ其人ノ右等物品ヲ買フベキ現金ヲ貸附クルト異ナラ  
シ凡ソ信任上ニテ物ヲ賣ル即未取代金ヲ取ラハ即チ貸附  
ケタル資本ニシテ假令其利息ハ別ニ之ヲ計斯ルニセヨ又  
ハ之ヲ隠蔽スル為メニ河等計點ヲ為スニセヨ既ニ其賣買ノ本  
價中ニ之ヲ含有セリトス且ツ此外ニ往々金錢ヲ以テスル代リ  
ニ更ニ他ノ負債者ニ宛テ拂方ヲ為サシムルノ命命書即チ為換指  
ス若シクハ其認許書附即類ヲ付與スル一又之レ有り是レ皆  
借主貸主ノ方ニ於テ之ヲ受取り且ツ其人ヨリ他ニ拂方トシテ  
又之ヲ通用セシムルモノナリ是故ニ吾人若シ貸附ノ額數ヲ積

算スルニ全ク金錢ノミヲ提ケルキハ則チ其全ク資本ニテ貸附  
タリシ分ハ確實ナラザル所アル一即チ資本ハ獨リ金錢ニ限  
ト利息ノ割合特ハ或ル場所ニ存在セル金銀ノ量數如何ニ由テ規  
則立テラルニ非スシテ一需用セシトスル資本高ト貸出サン  
トスル資本高トノ間ニ成立ツタル關係如何ニ因テ取極メラレ  
タルトヲ見出スベシ

○第五章 高賣

第百三十二節 卸賣商人共小賣商人  
凡ソ人ノ商品ヲ買入レテ其利ヲ得ル為メニ再々之ヲ賣ル一ヲ  
以テ職業トスルモノヲ商人ト謂フ此内ニテ其重ニ商人相手ニ  
再々賣ルモノヲ卸賣商人ト謂ヒ又其消費者ニ再々賣ルモノヲ  
小賣商人ト謂フナリ  
第百三十三節 初手第二手第三手ノ高賣



凡ソ商人タルモノハ要須ラク其商品ノ尤モ衆人ニ願望セラレ  
、モノヲ具備スルニ注意スベシ若シ此人其商品ヲ仕入レル  
ニ直チニ他ノ之ヲ造化ノ手ヨリ蒐集シタル人ヨリスルカ又ハ  
其之レニ製造ヲ加ヘタルモノヨリスルカニ於テハ此商賣ヲ初  
手ノ商賣ト稱シ又此人其商品ヲ他ノ自今ニ買入レタル人ヨリ  
シテ引受クルモノヲ第二手第三手其他ノ商賣ト稱スルナリ  
第百三十四節 初手ノ商賣ハ第二手ノ商賣ニ比スレバ多クハ  
行ハレ難ク且ツ薄利ナリトス

凡ソ物ヲ買フニハ其物賤價ナル程其利多キモクナルガ故ニ初  
手ノ商賣ハ之ヲ第二手第三手其他ノ商賣ニ比スレバ其利多キ  
ニ似タリ何者前後世話人ノ手ヲ歴是等々各々其報酬ヲ受領  
一且ツ各々其品物ヲ追次高價ニ賣レバナリ然リト雖凡茲ニ種  
々格別ノ事状アリテ初手ノ商賣ヲシテ行ハレ難カラシムルニ

非サレバ則チ更ニ薄利ナラシムルト夫ノ第二手其他ヨリモ太  
甚シキモノアリ何ツヤ商品ニ依テハ時アリテ其産出ノ場所ヨ  
リ直チニ之ヲ其消費セル場所へ運送スル能ハザルモノアリ是  
レ或ハ地理上ノ困難アリテ其勢此運送ヲ變換セザルヲ得ス例  
ヘバ「<sup>「</sup>ノ<sup>」</sup>一<sup>レ</sup>ム<sup>」</sup>バ<sup>」</sup>一<sup>レ</sup>グ<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>一部<sup>」</sup>府<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>商人<sup>」</sup>ハ<sup>」</sup>亞<sup>」</sup>米<sup>」</sup>利<sup>」</sup>加<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>産<sup>」</sup>物<sup>」</sup>ヲ<sup>」</sup>直<sup>」</sup>チ  
ニ<sup>」</sup>印<sup>」</sup>度<sup>」</sup>ヨ<sup>」</sup>リ<sup>」</sup>此<sup>」</sup>人<sup>」</sup>へ<sup>」</sup>送<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ヘ<sup>」</sup>ント<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>差<sup>」</sup>圖<sup>」</sup>ヲ<sup>」</sup>爲<sup>」</sup>ス<sup>」</sup>ベ<sup>」</sup>カ<sup>」</sup>ラ<sup>」</sup>ザ<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>類<sup>」</sup>或  
ハ<sup>」</sup>品<sup>」</sup>物<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>性<sup>」</sup>質<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>依<sup>」</sup>テ<sup>」</sup>其<sup>」</sup>困<sup>」</sup>難<sup>」</sup>尠<sup>」</sup>ナ<sup>」</sup>カ<sup>」</sup>ラ<sup>」</sup>ザ<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>等<sup>」</sup>即<sup>」</sup>チ<sup>」</sup>酒<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>種<sup>」</sup>類<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>依  
テ<sup>」</sup>ハ<sup>」</sup>國<sup>」</sup>土<sup>」</sup>氣<sup>」</sup>候<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>俄<sup>」</sup>カ<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>變<sup>」</sup>換<sup>」</sup>ス<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>爲<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>永<sup>」</sup>ク<sup>」</sup>保<sup>」</sup>存<sup>」</sup>ス<sup>」</sup>ベ<sup>」</sup>カ<sup>」</sup>ラ<sup>」</sup>ザ<sup>」</sup>ル  
ノ<sup>」</sup>類<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>因<sup>」</sup>テ<sup>」</sup>然<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ガ<sup>」</sup>故<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>初<sup>」</sup>手<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>望<sup>」</sup>ミ<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>應<sup>」</sup>ジ<sup>」</sup>其<sup>」</sup>品<sup>」</sup>物<sup>」</sup>ヲ<sup>」</sup>交<sup>」</sup>換<sup>」</sup>ス<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>能  
ハ<sup>」</sup>ザ<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>ミ<sup>」</sup>ナ<sup>」</sup>ラ<sup>」</sup>ス<sup>」</sup>又<sup>」</sup>甚<sup>」</sup>タ<sup>」</sup>レ<sup>」</sup>キ<sup>」</sup>危<sup>」</sup>難<sup>」</sup>若<sup>」</sup>シ<sup>」</sup>ク<sup>」</sup>ハ<sup>」</sup>費<sup>」</sup>用<sup>」</sup>無<sup>」</sup>ク<sup>」</sup>レ<sup>」</sup>テ<sup>」</sup>ハ<sup>」</sup>終  
ニ<sup>」</sup>之<sup>」</sup>レ<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>從<sup>」</sup>事<sup>」</sup>ス<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ト<sup>」</sup>能<sup>」</sup>ハ<sup>」</sup>ザ<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ト<sup>」</sup>屢<sup>」</sup>々<sup>」</sup>之<sup>」</sup>レ<sup>」</sup>有<sup>」</sup>リ<sup>」</sup>其<sup>」</sup>他<sup>」</sup>彼<sup>」</sup>此<sup>」</sup>隔<sup>」</sup>絶<sup>」</sup>ノ  
地<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>然<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ベ<sup>」</sup>キ<sup>」</sup>音<sup>」</sup>信<sup>」</sup>往<sup>」</sup>來<sup>」</sup>ノ<sup>」</sup>隔<sup>」</sup>絶<sup>」</sup>無<sup>」</sup>キ<sup>」</sup>場<sup>」</sup>所<sup>」</sup>ア<sup>」</sup>リ<sup>」</sup>テ<sup>」</sup>遂<sup>」</sup>ニ<sup>」</sup>各<sup>」</sup>地<sup>」</sup>商<sup>」</sup>人<sup>」</sup>ノ  
依<sup>」</sup>賴<sup>」</sup>信<sup>」</sup>任<sup>」</sup>等<sup>」</sup>ヲ<sup>」</sup>成<sup>」</sup>了<sup>」</sup>ス<sup>」</sup>ベ<sup>」</sup>カ<sup>」</sup>ラ<sup>」</sup>ザ<sup>」</sup>ル<sup>」</sup>ト<sup>」</sup>又<sup>」</sup>注<sup>」</sup>々<sup>」</sup>之<sup>」</sup>レ<sup>」</sup>有<sup>」</sup>リ<sup>」</sup>ト<sup>」</sup>ス



第百三十六節 商人ハ其賣物ノ代價ニ於テ如何ナル物ヲ恢復  
シテ可ナルヤ

夫レ高賣ハ商人ノ因テ以テ生存スル所ナレバ此人ハ其賣物ノ  
代價中ヨリ其商品ニ於ケル何等費用ヲ恢復スルヲ第一  
着ト為スベシ即チ其買入ノ費用運送ノ費用遠國ニ於テ此人ノ  
為ノニ商品ヲ買入レタル人ノ手数料若シクハ報酬荷荷船積運  
漕ノ費用道中ニテ拂ヒレ商品ノ税一ノ船ヨリ他ノ船へ積替エ  
ルノ費用陸揚并庫納ノ費用等ニシテ其内ニ就テ時アリテ尤  
著大ナルモノハ商品ヲ送遣スルニ付テノ費用并拂方是レナリ  
其他猶才是等諸費ヲ組立テタル所ノ資本ニ於ケル利息アリ是  
レ動モスレバ本未買入ノ費用ヨリモ超過スルヲ往々之レ有ル  
モノナリ

第百三十六節 商人ノ利潤若シクハ利得及ヒ其性質

凡ソ商人ハ古ノ外ニ猶オ所謂利潤若シクハ利得ナルモノヲ其  
賣物ノ代價中ヨリ收領セザルヲ得ス是即チ此人其得意先ニ  
對シテ服從セシ勤務アルニ付キ相當ニ給與スベキ所ノ報酬ナ  
リ畢竟此人ハ其商品ヲ仕入レルヲ并得意先ノ之ヲ需用スル迄  
良好ノ物質ニ之ヲ保存スルヲ等多少ノ辛苦力役ヲ費ヤセリ  
トス要之危難ヲ蹈ミ險害ヲ免レザルハ高賣ノ常ニシテ是レ或  
ハ猝然其地方ニ在ル商品ノ量數ヲ變易スルニ非ザレバ則チ或  
ハ後日俄カニ其願要ヲ代換スルヲアリ以テ其物價ヲシテ昂低  
常無カラシムルヲ致スモノナリ故ニ商人ヲシテ既ニ其商品ノ  
代價ニ於ケル主人ノ即チ勝手ニ之ヲ差配スタラシメヌ又苟モ其  
人ノ力役ニ於ケル給料無カラシムルキハ則チ其人ハ其商品ヲ  
所持シタル間ニ起ル所ノ代價ノ倏忽低下ニ於テ始終莫大ノ損  
失ヲ取ニ至ルベシ苟モ然ラバ則チ其人ハ後以テ其商品ノ代

大藏省



價騰貴ニルキニ當テ必ス此損失ヲ補償スル所以ノ方ヲ思ハズ  
シバアルベカラザルヤ必セリ商人ノ報酬ハ寧ロ考定シテ給料  
トセンヨリモ更ニ所謂利得ヲ以テ之ヲ自スル所以ノモノハ蓋  
シ是ヲ以テノ故ノナリ而シテ世或ハ其真性質ヲ察セスレテ妄リ  
ニ之ヲ憎惡スルノ徒アリト雖モ是レ其實大ニ然ラズ畢竟其真  
性質ハ到底其商人其得意先ニ對シテ始終給與シタル勤務ノ給  
料タルトテ夫ハザレバナリ

第百三十七節 商品ハ廉價ヲ要スル  
夫レ商人ハ其商品ヲ賣ルト弥々廉價レバ則チ其人ハ弥々其利  
ヲ得ベシ何者其人ハ因テ以テ得意先ヲ誘導スル所アレバナリ  
若シ假令ヒ其人ヲシテ獨リ其商品ヲ占有スルモノナラシムル  
ハモ其人ハ猶オ以テ其代價ヲ強ユルトテ附ケルトテアハ能ハ  
サル所以ノモノハ他無シ人皆此商品ヲ要セスレテ止ムノ事ア

レバナリ是故ニ商人タルモノハ須カラク其商品ヲ廉價ニ賣リ  
以テ其得意先ヲ誘導シ及ヒ其商品ノ内告レザルモノヲ欲ク庫  
藏スルノ事ヨリシテ起ル所ノ不利ヲ避クルトテ要スベシ此事  
ヤ實ニ商人ヲシテ其商品ニ於ケル資本ノ利息層積スルガ為メ  
ニ多少ノ損失ヲ取ルニ至ラシムルモノナリ

第百三十八節 機會共投機

世ニ凡百ノ事狀アリ以テ或ル場所ニ在ル商品ノ量數ヲシテ増  
減ヲ生セシメ若シクハ其商品ニ於ケル願要ノ赴ク所ヲシテ深  
淺アラシムルヤ遂ニ其商品ノ代價ニ感觸ヲ起シ之ヲシテ為メ  
ニ昂低ヲ生セシムルト注々之レ有リトス即チ年ノ豐歉世ノ流  
行及ヒ軍興其他ノ如キモノニシテ商賣上ニ於テ是等ノ事ヲ稱  
シテ機會ト謂ヒ而シテ凡ソ商人ノ此機會ニ乘シテ利ヲ射ラント  
スル所ノ動作ヲ稱シテ投機ト謂フナリ



第百三十九節 不正ノ投機

夫レ衆多ノ商家一時ニ同一ノ投機ニ従事スルハ則チ非ナリ何  
ツヤ其期望スルノ利ハ得ル所無クレテ却テ損失ヲ以テ之レニ  
代エレバナリ蓋シ一ノ商品ヲ衆多ノ商家ニ於テ同一ノ場所ニ  
輸出スルノ事ハ其代價ヲレテ必ス騰貴セシムルニ至リ而ノ衆  
多ノ商人又他ノ一場所ニ於テ其商品ヲ同時ニ賣捌カントラ企  
ツル片ハ則チ更ニ其代價ヲレテ低下ニ赴カシムルナリ然レ而  
投機者ノ目的クルヤ常ニ高賣ノ品物ヲ此所ニ於テ賤ク買込  
ムテ更ニ之ヲ彼所ニ貴ク賣捌カントスルニ在ル片ハ則チ其人  
ノ投機一敗セザランヲ欲ストモ豈ニ得ベケンヤ  
第百四十節 本色ノ高賣共委託上ノ高賣  
往昔郵便ノ制未タ起ラザルノ際ハ凡百ノ高賣一ニ其商人身親  
テ其商品ヲ買入レ機會ニ應レテ之ヲ賣捌キ以テ其利ヲ收ム

ルニ在リ是時ニ當テヤ高賣ノ存在セルモノハ特トニ卸賣ノ行  
賣ニレテ此商人ノ其商品ヲ行賣スルヤ常ニ各港ニ注未レ之ヲ  
賣出スニ非サレバ則チ他ノ品物ニ向ヒ之ヲ交換スルノ事アル  
ノミ若シ其所持主ノ即チ高品タルモリ身親カラ行旅スル能ハザ  
ルヤハ則チ別ニ代人ヲ使役シ之ヲレテ其主人ノ名前ヲ以テ舟  
船并荷物ノ賣捌方ヲ注意セシムル又之レ有リ方今此種類  
高賣ヲ稱シテ本色ノ高賣ト謂ヒ地球上ノ遠國若シクハ市場ヲ  
除クノ外ハ之レニ従事スルモノ頗ル稀レナリトス若夫レ方今  
ノ如キハ既ニ連絡ノ通信ヲ以テ運用スル所ノ便利ヲ指シ  
ルヤ自カラ商人ヲレテ貨物ト共ニ四方ニ行旅スルノ煩勞ヲ省  
カシメ其物品ヲ賣捌クニ復タ其居處ヲ離レテ遠ク他國ニ赴ク  
ヲ要セザルナリ此事ヲ實ニ夫ノ高賣ノ分派即チ所謂委託上ノ  
高賣トモノヲレテ起ラシムルヲ致シ是レ即チ委託上ニ於テ



買入賣出ヲ為スノ事タリ

第四百十一節 甲 買入ノ委託

凡ソ卸賣ヲ差圖スルニハ何人タリトモ身親カラ其商品ヲ賣ル  
人相手ニ堅固ナル掛合ヲ為ス<sup>即チ身親</sup>得ス蓋シ品物ニ代價其性質  
ノ差異アリ因テ以テ損失ヲ召クモノナルニ此人掛合ヲ為ス人  
ハ是等ノ事賣手ノ方ニ於テ果シテ如何ヲ監護スル<sup>ハザル</sup>能ハザル  
ベシ是レ實ニ品物ノ卸賣ヲ差圖スルモノ常ニ一ノ委員ヲ任シ  
之ヲシテ其行届ク丈ケ品物ヲ選擇シ且ツ之ヲ其人ニ送ラレ  
ル所以ナリ此委員ハ通例其報酬トシテ<sup>即チ所謂手数料</sup>毎百  
ノ一分半ヲ受領シ此報酬ハ重ニ其商品ノ性質良好ナル<sup>ト</sup>并其  
廉價ニシテ且ツ持久ナル<sup>ト</sup>及ヒ荷積ノ善キ<sup>ト</sup>等ヨリシテ之ヲ  
補償シ是レ皆該委員ノ注意ニ因テ然ル<sup>ニ</sup>ナリ且ツ此人ノ品  
物ヲ買入ル<sup>ニ</sup>ハ左ノ有様ニ於テスルモノトス即チ其人ハ同

時ニ其賣主ニ對シテハ負債主其選者<sup>即チ委員ヲ申</sup>ニ對シテハ  
債主タル<sup>ト</sup>是レナリ

第四百十二節 乙 賣出ノ委託

凡ソ品物ヲ仕出シテ其委員ノ所ニ送り之ヲシテ右品物ヲ庫中  
ニ保持シ且ツ賣出カシムル<sup>ト</sup>アリ是レ即チ所謂賣出ノ委託ニ  
シテ此委員ハ其勞ニ酬エル<sup>ヲ</sup>為スニ受領スル所ノ給料アリ名  
テ<sup>ラ</sup>バ<sup>語</sup>英ニ於テハ之ヲ「デスカウント、コムミ」<sup>引ノ手</sup>ト云フ<sup>ノ</sup>數  
ト謂フナリ斯ル委託ハ重ニ製造者ノ之ニ從事セシムル所ニ  
係リ此人常ニ其委員ヲ頼ミ之ヲシテ其品物代價ノ若干ヲ其場  
ニテ拂ハシメ製造者ニ於テハ該品物ノ賣レル迄之<sup>レ</sup>カ利息ヲ  
拂フ<sup>ト</sup>テ承諾スルモノトス此利息ハ至テ恰好ナルモノニシテ  
是レ原ト自然ノ理由タル何者此委員ニ於テハ既ニ其品物ヲ掌  
握ニシテ充分ノ保固ヲ有シ且ツ貨物モ同様ナルヲバステノ故ナ



レバナナ

第百四十三節 「エキスベデション」詳本節ニ

凡ソ商品ノ手捌ニ一種ノ動作アリテ場所ニ依リ古手捌ノ方法  
自カラ變通ヲ要シ又ハ然ルベキ施設無カルベカラザレハ事ノ  
必要避クベカラザルモノナリ例ハバ商品ノ海上ヨリ到着スル  
モノヲ更ニ陸地ニテ送致セザルヲ得ザルト若シクハ之レト相  
反スルノ場合又ハ或ル國ニ於テハ其國法ヲ以テ外國ノ船舶若  
シクハ荷物ノ通行ヲ禁止スルトアルノ場合ニ於ケルノ類此  
之ヲ「ゴムメルス」デ、エキスベデション快手ノ商賣ト謂フ是レ持  
用キル所ニ係リ英ニ於テハ之ヲ「エキスベデション」蓋シ商品ヲ送  
致スルニハ商品ノ受納、運賃ノ投付、仕出ノ方法并稅銀ノ拂方等  
種々ノ事務自カラ在ル有リ一旦變故ノ際ニ當リ之ヲ處公スル  
ニ豈ニ多少ノ才覚工夫無クシテ可ナランヤ是等ノ事實ニ職業

上ノ習熟ト貿易上ノ知識トヲ要スルガ故ニ此「エキスベデション」

事務ハ之ヲ高賣ノ一分派ト考定スルトナリ且ツ商人タル  
モノ、此事ニ付テ其雜費ヲ出スハ是ヲ以テノ故ナリ此「エキス  
ベション」ノ事ヲ取扱フ人ハ此事ニ付キ其親カラ前拂ヒセシ分ヲ  
再ヒ拂込マレタル上ニ其勞ニ酬ユル為メニ該商品ノ代價每百  
ノ三分一ナル割合ヲ受領スルモノトス

第百四十四節 「ゴムマンデット」猶オ英ノ所謂「アランテ、オ、フ、キ、

夫レ高賣上ノ便利具備スルト苟モ前ニ陳列スル所ヲ如クナレ  
バ則テ「ゴムマンデット」ヲ設置スルノ事ハ恐ラクハ至便カリトセ  
サルベレ「ゴムマンデット」トハ凡ソ商人タルモノ其居處外ノ場所  
ニ於テ別ニ高賣所ヲ設ケ其頭取トシテ一ノ管事者ヲ置クノ事  
ナリ然レ至テ正直ノ人タリトモ其動作スルヤ之ヲ餘人ノ其

大蔵省



自己ノ利益ニ向テ働ラク所ノ動作ニ由スレバ大ニ徑庭アルモ  
ノナリ故ニ苟モ此「コ」マンゲットヲ置カバ互シク其本店所在ノ  
場所ト其支店<sup>即チ「コ」マンゲット</sup>又同シトノ場所トノ間及ヒ本店ノ主  
人ト支店ノ管事者トノ間ニ於テ一ニ捷速切實ノ關係<sup>即チ往來</sup>  
ヲ通シ及ヒ各々其利益ヲアラシムルヲ要シ然後其有用ナルヲ  
見ルベキノミ

第百四十五節 商社

或ル商業ヲ一緒ニ經營シ若シクハ共同ノ商賣ヲシテ永續セ  
ムル為メニ衆人相集ル<sup>ト屢ク之レ</sup>有リ是等ノ會合ヲ名ケテ商  
社ト謂フ蓋シ苟モ商賣上ノ運用ヲ盛大ニスルニ非ザレバ則チ全  
國人民ノ利益得テ興隆スベカラザルノ思考アルヤ曠昔或ル時  
代ニ於テ商社若シクハ會社<sup>ト</sup>ヲ創建シタル<sup>ト</sup>甚タ著ルシ<sup>ト</sup>而シテ  
又利スル諸人ヲ募集スル為メニ其人此商賣<sup>ト</sup>即チ其資本ヲ分テ

數部分トシ名ケテ株式ト謂ヒ是レハ其拂込ムベキ金高井諸人  
用及ヒ取極メタル利得ノ割合ニ應シテ賣買<sup>ト</sup>供スルモノナリ  
且ツ取締役ナルモノ數員アリ是等商社ノ頭取ニ位シ而シテ  
ヲ利スル諸人ハ勝手ニ其株式ヲ賣買スルトトセリ然レニ爾來  
經驗ノ致ス所斯ル商社ハ其政府ヨリモノボリ<sup>ト</sup>ノ特許ヲ以テ  
之ヲ惠護スルニ非ザレバ則チ之ヲ保持スル能ハザルトトナリ  
シノミナラス又假令ヒ之ヲ惠護スルトモ其資本ニ於ケル毎百  
ノ割合<sup>即チ分</sup>若チ分益ニシテ其割合<sup>常ニ</sup>百未タ曾テ著大ナラザ  
ルトアルヲ免レヌ是レ他無シ取締役ノ動作ハ曾テ自餘商人ノ  
其自己ノ利益ニ向テ商賣スル所ノ動作ニ及バザル所アレバナ  
リ其他一方ニ於テハ凡ソ商賣ノ事業タルヤ若シ其細微ノ事ニ  
於テ能ク監視スル所アル能ハス<sup>即チ事業至大ナルヲ以テ</sup>  
謂フ<sup>ト</sup>ロツ緊要ノ事務ヲ擧ケテ之ヲ二三ノ被傭者<sup>即チ指</sup>指ス



ノ意了ニ任カスルキハ則チ其成績ヲ萎スルト幾希ナリ作昔ノ  
痛ハスル此ニ至ルモノハ蓋シ時代稍速ク持タルニ當時ノ流弊ヲ  
親視シテ未タ今日ノ全盛ヲ目撃スルニ及バサルニ當ルルノ弊ヲ  
親者察セヨ

第百四十六節 アルメーメン佛出スルト仕共保險

右ノ外猶オ高賣上ニ添加シ且ツ之ヲシテ極メテ便利ナラシム  
ルノ二事務アリ即チアルメーメン共保險ニシテ此二者ノ職業  
ハ相當ニ言ハバ所謂資本家ノ職業ノ分派ト謂モ可ナリアルメ  
ーメントハ商品ヲ運輸スル為メニ舟船ヲ保持スルノ事業ニシ  
テ通例衆多ノ人相共ニ結合シ以テ舟船ヲ仕出し且ツ此仕出人  
ハ銘々其資本ヲ一艘ノ舟船ニ入ル、ヨリモ更ニ數艘ノ舟船ニ  
割付ケテ入レルトナレリ又此仕出人ハ一ノ船將ヲ選任シ之  
ヲシテ特トニ海上ニ於テ舟船運用ノ指揮ヲ爲サシムルノミナ  
ラス又意ヲ諸般ノ事務ニ注カシメ且ツ其請込共仕排ノ明細書

ヲ此仕出人へ差出サシムルトス若夫レ保險トハ若干ノ料銀  
ヲ取り以テ凡ソ舟船荷物其他凡ソ保險ニ供ヘキ諸物、或ル  
危難ニ際シテ起レ所、損害ヲ補償スルノ事業ニシテ資本家ノ  
此目的ヲ以テ會社ヲ結フモノ多ク之レ有リトス保險料ノ高ハ  
一ニ其危難ノ大小如何ニ因テ規則立テラレルトシ而シテ例ハ  
バ百艘ノ舟船ニテ一季若シクハ或ル航海ノ間ニ通常沈没スル  
モノ凡ソ幾艘ナルヤニ準シ毎百若干ノ割合ニ應シテ其高ノ多  
少ヲ定ムルヲ常トス

第百四十七節 地金ノ高賣資本家佛英語「フレミヤム」金

夫レ貨幣ハ即チ一種ノ商品ナリ故ニ之ヲ高賣上ノ諸物同様ニ  
使用スルハ復タ素ヨリ自然ノ理勢ナリ此貨幣ヲ以テ高賣ヲ為  
スモノヲ名ケテ資本家銀行者又ハ「レンヂヤ」即チ田地家屋等ヲ

七



ルモト謂フ蓋シ貨幣ノ價ニ昂低アルハ特トニ金ト銀トノ價  
 位ニ異變ヲ生スルニ因ルノミナラス又貨幣ノ内ニ就テ人ノ或  
 ル國ニ於テ甚ク使用シ且ツ尊崇スルノ種類アルニ因テ然ル  
 アリ夫ノ「ツッカー」ト「エック」以上ニ著アルベルト澳新利亞ノ貨幣以  
 通用ニ係等ノ如キ一時自餘貨幣ヨリモ特トニ需要セラル  
 之  
 有リ是是多クハ其際一時右ノ貨幣ヲ以テ巨大ノ金額ヲ仕拂フ  
 ベキ旨約定ヲ為スモムアリテ其負債者ハ右ノ貨幣ヲ得ル  
 汲々シ且ツ之ヲ得ル為メニ其人ハ必ス他ノ貨幣ヲ其金屬ノ價  
 位即チヨリモ低價ニテ授與スルノ事アルニ因ルモノナリ此金  
 銀貨幣ト地金トノ間ニ於ケル差異ヲ名ケテ「アゴ」ト謂ヒ而  
 此「アゴ」ト需用セラレタル貨幣トノ間ニ於ケル割合ヲ「ゴ  
 ー」ス  
 語併  
 英語「エキステンヂ」場即チ相ト謂フナリ

第百四十八節 為換手形ノ原因

為換ノ事  
 百四十八節

歐羅巴洲ニテ商賣ノ再興遷馬ノ衰亡以後ニ就スルヤ諸國ノ貨  
 幣各々殊異ナルヲ以テノ故ニ諸仕拂上一於テ多少ノ困難アル  
 ヲ致セリ畢竟此際一國ノ貨幣ヲ把テ他國ノ貨幣ニ交換スルニ  
 ハ唯其金屬上ノ價位目即チ量ノミヲ以テセザルヲ得ス苟モ然ラ  
 バ則チ之レガ為メ造幣ノ費用若シクハ鑄造ノ代價ヲ失ヒ是レ  
 其事猶チ銀地金ヲ以テ善良ノ銀皿ニ換フルト同様ニシテ其愚  
 亦甚シ其他一方ニ於テハ一國ノ貨幣ハ其仕拂ヲ為スベキ他ノ  
 國ニ於テ彼此同一ノ通用ニ供スル一又甚ク稀ナルモノナリ凡  
 ツ是等ノ困難ヲ避クル為メニ遂ニ往時ノ或ル市場ニ於テ貨幣  
 交換人即チ我ノ類ナルモノヲ叢見セリ此交換人ハ諸商人ノ談市  
 場ニテ受取リタル貨幣ヲ其人ノ本國若シクハ自餘諸國ノ貨幣  
 ニ向ヒ其割合ニ應シタル間金ヲ取り之レガ交換ヲ為スモノニ  
 シテ此交換ノ事ヲ名ケテ「カムビ」ト名交換ノ又ハ「カムビレ」ト



ニ動詞以上ト謂ヒ此語ハ明カニ「ヘブロー」國語ノ出典ニ係レ  
リトス又各種ノ貨幣ヲ其通用セル各國ヨリ其終齋ラシ歸ルニ  
付キ種々ノ不便アルニ付キ右交換管事者即チ上文ノハ更ニ左  
ノ取扱方ヲ發明セリ即チ

此管事者ハ先ツ他ノ外國貨幣ヲ望ム人ヨリ其持參セシ貨  
幣ヲ受取り隨テ之レト引換ヘニ右人ノ望ミシ貨幣ノ代リ  
ニ受取書附ヲ與ナルナリ但シ此書附ハ右貨幣ノ通用セル  
場所ニ在ル交換管事者ヘ宛テ其金高ヲ拂フベキ旨ヲ此人  
ヘ命令シ之ヲ振出スモノトス

如此ク右管事者相互ニ振出ストナリテ此受取書附ハ終ニ為  
換手形ノ名称ヲ得ルニ至レリ羅甸語ニテハ之ヲ「レタレ、ゲ、カム  
ゴ」  
ト云フ義ト云フ蓋シ此手形ハ持ルニ任拂ニ於ケル命令  
書タルノミナラス又實ニ交換シタル貨幣ノ名代記號ナルモノ

トス而シテ之レニ約束ヲ記載シ其場所ニ於テ貨幣同様ノ價格ア  
リテ恰モ紙幣ト一般且ツ其望ミタル現貨幣ノ原位ニ復スルモ  
ノナリ此理由ナレガ故ニ若シ為換手形ノ請込即チケル一換手形保  
証法ニシテ一形ノ持者之レニ向ヒ拂フベキ人ニ必ス之レニ向  
ヒ於テ之ヲ一形ノ異議無クハ其期限ニ至リ必ス之レニ向  
ヒ拂フ形ト裏面ニ於テ書入レ請込之ヲ選付スルト其名ヲ  
為サス及ヒ其振出人ニ於テ即時其損害共利子ノ補償ニ從事セ  
ザルノ事故アルニ當テハ其裁判官タルモノハ此事ニ就テ未タ  
一定ノ法律無キ以前サヘモ此振出人ヲ判シテ詐偽ノ私罪トシ  
且ツ之ヲ捕縛スルノ理アルモノトセリ夫レ為換手形ヲ發明ス  
ルノ原因ハ大抵如此シ遂ニ當今歐洲ニ在テ如此ク文明開化ノ  
再盛スルヤ其與リテ功績アル昭々蔽フベカラス畢竟歐洲諸國  
ヲシテ彼此相密通ナラシメ因テ以テ全世界ノ大商賣ヲ展ク如  
此キノ盛大ニ至ル所ノモノハ獨リ此為換ノ致ス所ナルヲ以テ



第百四十九節 為換ノ取組ヲ為スニ付テ必要ナル人員  
凡リ為換ヲ取組ムニハ三名ノ人員ヲ要スルヲ常トス(即チ

**甲** 振出人此人ハ他ノ外國貨幣ヲ望ムモノアレバ貨幣ノ代リ

ニ手形ヲ授與シテ手形面ノ價額ヲ右金高ノ拂ハトシテ受  
領スルモノ  
出スモノノ注意  
凡ソ條約ヲ取結フトニ從事シ得ルモノ  
ハ之レニ從事スルヲ得ルモノ  
其ノ有財産ニモ及フモノトモ  
其ノ有財産ニモ及フモノトモ  
是レナリス

**乙** 手形ヲ振出サレタル人(稱シテ振出サレ人ト云フ)此人

ハ外國貨幣ノ拂出ヲ為スベキモノ且ツ充分其振出人ヨリ  
再ヒ拂込マレルヲ否ラザレバ則チ其振出人ニ對シテ終  
始訴訟スルノ推理ヲ保有スルモノ

**丙** 受取人此人ハ貨幣ノ交換ヲ望ミ手形ヲ受領シ手形面ノ價

格ヲ支給シテ又必ス其金高ヲ恢復スルモノ

振出人ハ其手形ノ善否如何ニ任スルモノト云振出サレ人ハ之

ヲ請込ミタル後始メテ其責ニ任シ全ク其請込ミタルニ因テ之

レガ仕拂ヲ擔任スルモノトモ蓋シ甲ノ手形ヲ乙ニ於テ未タ請

トテ得ルノ事ナリ且ツ振出人ハ其手形ニ於ケル全分ノ仕拂皆濟

近ハ(勿論一旦請込ミ後ハ專ラ此請込人即チ振出ニ對シテ其

掛合ヲ為スヲタリト雖モ其擔任猶オ存在セリトス

第百五十節 裏書

為換手形ノ受取人ハ該手形中其人ノ名前ノ次キニ又ハ其命令

ニ因テノ文句ヲ挿入シタルヲ以テノ故ニ其人ノ推理ヲ他ニ讓

典スル賣渡シテ手形ヲ便ヲ得ルモノトモ即チ手形ハ他ニ賣却ス

人ノ受取人ヨリテ外ニ若シ其氏トミ且記載シ此人ヨリ無キハ本

ル幾多ノ人トハ轉賣却スルモ全ク於テ之ヲ詳知スベシム此推理

新編



ノ讓與ハ必謂裏書ニ因テ之ヲ為シ得ルモノトス裏書トハ某氏  
 へ。又ハ其命令ニ因テ拂フベシ又ハ某氏へ。又ハ其命令ニ因テ受  
 領シタル價格受領以下ノ文句ヲ挿入スルハ重ヲ拂フベシトノ  
 兩様文句ヲ詠手形ノ裏面ニ書入レルトナリ此裏書シタル人ヲ  
 稱シテ裏書人トシ而シテ為メニ裏書ニ從事サレタル人ヲ裏書サ  
 シ人トス夫レ為換手形ノ諸人ニ通用スルトテ得ルハ是ヲ以テ  
 ノ故ナリト雖モ各裏書人タルモノハ更ニ其振出人ノ擔任ヲ引  
 請ケ前後相承ケテ詠手形ノ善否如何ノ責ニ任スルト猶才贖金  
 ヲ捧出シタル人ノ假令ヒ其是非ヲ辨セザルニモセヨ餘ノ改貨  
 ヲ以テ之ヲ取換ヘザルヲ得ザルガ如シ即チ乙若シクハ丙丁戊  
 次ニ仕拂ヒ肯シセザルハ其關係  
 若シ詠手形單ニ裏書人ノ名前ノミヲ記載シタルモノキ拂フベ  
 キ名宛無ハ通例之ヲ持卷人ニ拂ヒ且ツ其受取渡シニ因テ諸人

へ通用スルモノトス故ニ若シ其振出人タルモノ持卷人へ拂  
 フベシト命令シタルキハ其手形ハ別ニ金錢ヲ受取ルノ権理  
 ヲ授ケル為メノ裏書ヲ要セザルモノトス即チ時恭人ノ差出  
 之金錢ヲ渡ス記法ナリ以テ  
 第百五十一節 為換手形ニテノ拂方  
 誰人ニテモ苟モ外國へノ拂方アルモノハ為換手形ヲ買入レテ  
 之レニ此人ノ債主ヲ受領スベキ外國ニ在ルベシ拂方ノ命令ニ因テ  
 拂フベキ旨ヲ裏書シ隨テ之ヲ其拂方トシテ詠債主ノ方へ送致  
 シ以テ右拂方ヲ為ストテ得ベシ  
 例へバ日本ノ甲倫敦ノ乙へ拂フベキ百磅ノ負額アルニ甲ハ  
 右同高ノ為換手形ヲ買入レ此手形ハ既ニ甲ノ名前ニナリ且  
 ツ甲へ百磅ヲ拂フベキ旨丁へ命令シタルモノト知ルベシ之  
 レニ裏書スルニ乙へ宛名ヲ以テシテ乙へ送致スルナリ乙



之ヲ受取ルノ後丁ノ方へ差出シ百磅ノ拂方ヲ受領スルノ類  
又誰人ニテモ苟モ外國ヨリ受領スベキ金額アルモノハ此人ノ  
負債者即チ前時談外國ニ在リテ古金へ向テ為換手形ヲ振出し  
之ヲ此人ノ居住所ニテ賣拂ヒ以テ古金額ヲ受領スルヲ得ベ  
シ

例へバ倫敦ノ丁日本ノ丙へ百磅ノ引負アルニ此金高ヲ日本  
ニテ受領スル為ノコハ丙ニ於テ一ノ百磅ナル為換手形ヲ丁  
ニ向テ振出シ為換ノ時相場例へバ百磅五百弗ノ割合ヲ以テ  
之ヲ日本ニテ賣拂ヌナリ且ツ前ニ表出スル必ク甲ニ於テ之  
ヲ買入レ以テ乙へノ負額百磅ヲ拂フニ從事スルト假定ス  
ルノ類

如此キノ手續ナルが故ニ方今ノ際就中委託上高賣即チ第百四  
十節以下  
十詳カ始マリシ以来各商人ノ間ニ物ト物トノ交易又ハ「バー」  
「ター」

即チ相互ニ商品ヲ送遣スルニ因テ拂方ヲ為ス「ト」從事スル「ト」  
甚タ稀少ナリトス畢竟我佛國中誰人ニテモ自國ニ於テ需要ス  
ル必ク商品ヲ他國ヨリ買入レルモノハ未タ必シモ自國ヨリ輸  
出セル物品ニ就テ一々其取組ヲ為スニ非ザレバナリ蓋シ者ノ意  
謂フ  
同ニ於テ人信ニシテ輸出者輸入者ヲ兼テ至テハ稀未タリ必シモ如  
國ニ於テ然レ然レ氏日本ノ開港場ニ至テハ稀未タリ必シモ如  
此クナリラ要之高賣ノ事業モ亦之ヲ分ツテ弥ク精細ノ分派ニ至  
ラシムルハ猶オカ役ニ於ケル事由法ヲ指シ業ノト同一致ナル「ト」  
ト知ルベシ

第百五十二節 為換手形ニハ期限拂ト到着拂若シクハ直拂ト  
ノ二種アリ  
為換手形ノ價格ニ向テ際限無ク其責ニ任せザルガ為ニ通例  
其拂方ノ期限ヲ該手形中ニ掲載スルトトナレリ即チ三箇月  
六箇月ノ類  
此為換手形ヲ名ケテ期限拂ノ為換手形ト謂フ此手形ノ内地



ヨリ彼地迄ノ遠近如何ニ應シテ拂方ニ於ケル然ルモキ期限ヲ  
慣習ニ因リ立定スルモノアリ歟謂ユ。一。サ。ン。ス。取。蓋。シ。ノ。慣。習。ニ。因。リ。  
義ノ。為。換。手。形。即。チ。是。レ。ナ。リ。獨。是。レ。ニ。例。テ。ハ。之。バ。索。ユ。一。於。テ。左。ノ。形。ト。約。謂。  
ヲ。外。國。ヨ。リ。索。ガ。キ。モ。向。ケ。テ。出。立。ル。モ。ハ。ト。ス。即。チ。送。達。後。十。四。日。以。内。  
佛。國。ヨ。リ。ハ。二。箇。月。モ。ト。ハ。其。日。附。後。一。箇。月。ハ。三。箇。月。ト。イ。フ。耳。曼。白。耳。義。共。  
ナ。ル。モ。但。シ。ハ。日。耳。曼。白。耳。義。共。ノ。為。換。手。形。ニ。於。テ。ハ。三。箇。月。ト。イ。フ。耳。曼。白。耳。義。共。  
何。者。其。拂。方。ニ。於。テ。ハ。期。限。ヲ。明。白。ニ。指。定。セ。ザ。ル。ガ。故。ニ。裁。判。上。不。  
都。合。者。ハ。免。レ。ル。期。限。ヲ。以。テ。明。白。ニ。指。定。セ。ザ。ル。ガ。故。ニ。裁。判。上。不。  
タ。ラ。ル。以。テ。ハ。免。レ。ル。期。限。ヲ。以。テ。明。白。ニ。指。定。セ。ザ。ル。ガ。故。ニ。裁。判。上。不。  
ニ。於。ケ。ル。ヤ。曾。テ。期。限。ノ。指。定。セ。ザ。ル。モ。ア。リ。名。ケ。テ。到。着。拂。方。  
ク。ハ。直。拂。ノ。手。形。羅。旬。語。ウ。井。ス。タ。ト。謂。ヒ。此。振。出。人。タル。モノ。ハ。  
其。振。出。サ。レ。タル。所。ノ。人。へ。請。込。ミ。ト。シ。テ。送。示。ス。ル。迄。ハ。其。責。任。猶。  
オ。存。在。セ。ル。モ。ト。ス。勿。論。為。換。手。形。ハ。夫。レ。ノ。期。限。未。ク。過。了。セ。  
ザ。ル。前。ニ。必。ス。送。達。ス。ベ。キ。ハ。當。然。ノ。事。ニ。シ。テ。就。中。到。着。拂。手。形。ノ。

如キハ其持者裏書其他ニテ法則通稱タルモノハ其手形ヲ振  
出サレタル所ノ人ノ所ニ到着スルヤ否ヤ直チニ之ヲ此人へ送  
達スルヲ至當トスルナリ假展レ特タルニ行旅トノ知ルヘシ送。〇。日。耳。曼。ト  
直チニ為換律ニ據レモバ凡ハ之到着者ハ之ヲ請込ミ勝トシテ  
レバベシト雖モ其振出人若シクハ裏書人相手送達送。示。セ。ザ。ル。ガ。故。ニ。裁。判。上。不。  
トフモノノ  
第百五十三節 一番ニ番ノ為換手形  
凡リ為換手形ノ裏書方ヲシテ便ナラシムル為メニ其持者ハ時  
アリテ一枚以上ノ副紙ヲ受取ルテアリ是レハ一番ヲ為換。二番  
ノ為換。三番モ亦ト云フ名称ヲ以テ其區別ヲ立テタルモノトス  
此持者ハ一番ヲ直チニ其振出サレタル人ノ居住地へ向ケ該地  
ニ在ル他ノ通信者即チ仲間若クハ親戚ノ者ニシテ平ヲ頼ミ  
以テ之レニ送達セシムルナリ但シ是レハ此通信者ニ與フルニ



現ニ其拂方ヲ受取ラシムルノ權ヲ以テスルニ非スレテ詰リ此  
 通信者ヲシテ古振出サレ人ヨリ此為換ノ拂期限至レバ相違無  
 ヲ拂フベシトノ保證ヲ要請セシムル即チ上節請込ヲニ過キザ  
 ルノミニ番ノ為換ハ更ニ他ノ其拂方ヲ受領スベキ人ノ名前ヲ  
 裏書シ之ヲシテ其拂期限至ルノ時ニ到着セシムルナリ而シテ一  
 番ノ為換即チ既ニ請込マレタル所ノ持者ハ必ス之ヲ二  
 番ノ裏書サレ人へ廻送セザルヲ得ス然ル上右請込人ハ此ニ紙  
 ノ為換手形ノ正當ナル即チ此ニ者ノ一緒ナルト共ニ因テ其拂  
 方ヲ為スナリ要之此一番ハ即チ其人ノ請込ヲ證據立テ示ノ二  
 番ハ即チ其裏書ノ確實ナルトヲ証據立ツル所以ナリ以上陳一  
 種ノ為換取組方法ニシテ當今ノ際為換ニ從事  
 第百五十四節 公討本節ニ詳ラカレテ解ノ事共公討後ノ請込  
 又ハ公討後名譽若シクハ仲入ニ因テ請込ム

凡ソ為換手形ヲ振出サレタル所ノ人ニ之ヲ請込マシ又ハ之レガ  
 拂方ヲ拒ムニ於テハ其持者ハ須カラクバブリックノ一タレ即チ官  
 ヲ受ケタヨリ左ノ旨ヲ書認メタル公討狀ヲ取出スベシ即チ右  
 振出サレ人ノ取扱即チ前段振出サレ人ノ事ヲ不承知ニ思フ次  
 第ト其自分ニ金錢ヲ受領スベキ所ノ權理ヲ私ニ枉ケザル所以  
 及ヒ其年月日等ヲシテ明瞭ナラシムル為メノ事是レナリ英米  
ニ於テハ未ダ必シモ此手續ヲ要セザ然後右持者ハ振出シ手形羅  
レ自餘諸國ハ大抵如シト云爾手形ニ依リ為換手形面ノ全  
 額ト其利息共償金トノ計算ヲ立テ、該手形ノ裏書人若シクハ  
 振出人ヨリノ辨償ヲ要求スルナリ供シナガラ若シ人アリテ此  
 手形ニ向ヒ拂方ヲ為スベキ旨ハ即チ名譽ヲ保全スル為メ若シ知  
 シルベ申出ツルモノアルニ於テハ古持者ハ必ス其手形ヲ之レニ  
 讓與セザルトヲ得ザルモノトス何者古持者一旦誰人ヨリカ其



全高ヲ受領シタル上ハ其振出人此持者へ對シテハ全ク其擔任  
 ヲ免ル、亦アレバナリ斯ル請込人又ハ公計後名譽其他ニ因テ  
 請込ミタル人ハ更ニ該手形ノ持者ノ権理ヲ享有シ且ツ此人ハ  
 其人(即チ該手形ノ全高ヲ拂ハレ為メニ名譽ヲ保チタル人)即チ  
 人若レ知クハ裏書人ヲ相手取り為換律ニ據リ訴訟等ニ從事スル  
 ノ内ト知ルべシ(而シテ)モ勝手タルトス而シテ其此手形ヲ振出サレタル所ノ人タリト  
 モ亦同シク其法則通ダナル費用拂方共償金ニ於ケル要求(但シ  
 右要求ハ只管該手形ヲ送達セラレタル所ノ振出サレ人其拂方ヲ  
 為スニ於テハ全ク之ヲ達スルヲ能ハザルモノト知ルべシ)即チ  
 公計後ニ係ルモ無キノ意(ヲ達スルニ付キ其裏書人若シクハ  
 振出人ヲ相手取り為換律ニ據リ斯ル難澁ノ公裁ヲ仰ク為メニ  
 更ニ公計後ニ於テ該手形ヲ請込ムノ権理アリトス)即チ公計後  
 ナレバ振出サレタル所ノ人英ノ為換律ニ據レバ即チ公計後  
 モ餘人ニ曾テ區別無キノ意(モノハ必シモ他ノ名譽ニ因リ請込

但一若シ許容スルニ及バシタル全ク之ヲ拒ムラ得ルモトス  
 給ニテ一應之ヲ其振出サレ人へ送達シ之ヲ即チ其押金ノ支  
 給ニ從事セシム然若シ之ヲ弗ハガレニ於テハ該手形ハ更ニ仕  
 因リ公計ニ付シタル後拂方送達スルモノヲ其名譽  
 第百五十五節 割引

凡ノ為換手形ハ其拂期限未タ至ラザル前ニ之ヲ賣買スルトア  
 リ此レヲ割引(即チ手形ヲ割引スルト)謂フ此取扱ヲ為スニハ  
 其買手ハ必ス該手形ノ仕拂済ム迄ノ時日ヲ計リテ之レガ利息  
 ヲ領受スル(即チ割引ノ事)ニシテ畢竟此買手ハ賣手へ對シテ  
 該手形ノ拂期限ニ至ル迄ハ貸金ヲ為シタルト同様ノ思考ナル  
 ガ故ニ是レ原ト至當ノ事タリ且ツ此利息ノ割合極メテ寡少ナ  
 ルハ自然ノ理ニシテ畢竟其買手ハ該手形ニ於テ充分ノ保固ヲ  
 有スル所アレバナリ然リト雖モ諸人ノ其手形ニ於ケル割引ヲ  
 望ムモノ、争競ニ乘寡アルト共該手形ニ於ケル保証ノ安心不



安心トニ因テ此割引ニ感觸ヲ起シ之ヲシテ高低アラシムルト  
又心ス之レ百ルモノナリ

第百五十六節 為換ノ割合 ○一定并流通ノ價位即ベレ相場ト知

為換手形ハ到底其手形ニ向ヒ拂フベキ地方ニ通用セル所ノ貨  
幣ヲ以テ之レガ仕拂ヲ為ス<sub>一</sub>タルハ其常ニシテ凡ソ貨幣ノ量  
數ヲ通例為換手形ニ明示シ即ベレ英貨ナレバ何磅ノ類ニ而シテ  
レニ因テ其價格ヲ決定シ即ベレ日耳曼通貨ナレバ英貨幾磅其持  
者知ルベレトタルモノ、因テ以テ其代リトシテ典フベキ不  
ルモノ此レ之ヲ名ケテ一定ノ價位ト謂フ例ヘバ十磅ステーリ  
ング即ベレ唯十磅ト稱スルモ同様ナレト故事ニ基ケリト云爾  
ノ如キハ即ケテフランクホート一日耳曼ノヨリ倫敦ヘ向ケ振出ス  
所ノ為換手形ニ於ケル一定ノ價位ニシテ又百フラン、  
ルモ此レ之ヲ名ケテ一定ノ價位ト謂フ例ヘバ十磅ステーリ

名ハフランクホートヨリアムストルダム和蘭ノ一府又或ハ百フ  
ランク佛國其他ノハ同所ヨリ巴里若シクハブラスセル白耳義  
ノ首府  
ヘ向ケ支レク振出ス所ノ為換手形ニ於ケル一定ノ價位ナリ其  
他ハムバアーグ一日耳曼ノ百バンコ、ターレル、  
當ケルタノモレニバ價格時々異同高低アリテ取引上ノ不便  
避ケルヲハライポシク一都府ノヨリハムバアーグヘ向ケ振出ス所  
ノ為換手形ニ於ケル一定ノ價位ナル等ノ類ニシテ是等ノ價位  
ハ其實一定シテ變動セザル所ノ程度ト考定スルニ過キザルノ  
ミ又之レニ反シテ貨幣ノ量數幾許ナルモ人其為換手形ノ價格  
ニ向ヒ之ヲ拂フ<sub>一</sub>テ承諾シ即ベレ其通貨定名ナルトニ於テ  
ルニベシト知而シテ其一定ノ價位ト對照シテ交換スル所ノモノ  
ヲ名ケテ流通ノ價位ト謂フナリ且又此一定ノ價位ト流通ノ價  
位トノ間ニ於ケル所ノ割合或ル地方或ル時日ニ於テ常ニ行ハ







若夫レ為換手形、價格ニ向ヒハ謂流通ノ價位ヲ以テ其仕拂ヲ  
為シタルニ其價位ハ謂一定ノ價位トモ多寡異同無キハ即  
被此貨幣ノ真價同ニ則チ此為換ノ割合ヲ名ケテ並價ト謂フ即  
チ英貨一磅ステーリングノ如キハ二千二百八十「ア」量至小ノ金  
ヲ含有スルモノトシ若シ「エ」リクスバ「グ」一都府ノ「ロ」倫敦ニ於  
ケル為換ノ交換日耳曼通貨六「タ」ル「ル」十「グ」グ「テ」グ「セ」  
ル「貨」幣量名ニシテ「一」ナ「リ」ナルキハ則チ「二」千「八」百「八」十「ア」ス  
銀ニ於テ六「タ」ル「ル」十「グ」グ「テ」グ「セ」ル含有スルヲ以テノ故  
ニ是レ特リ且ニ金銀兩貨ノ殊異アルヲ以テ其比較ニ就キ斯ノ言  
ト雖モ到底如此當時金銀比較上ノ價位其詳細得テ知ルベカラ  
トスルガ如キ曼「レ」ナリ又之レニ反シテ人若シ或ル場ハ於テ  
其流通ノ價位ニ向ヒ之レガ純金銀是レ即チ真價ヲ拂フ「一」其  
定ノ價位ニ含有セルハヨリモ多量ナルキハ則チ此為換ノ割合

ハ之ヲ高價ト謂ヒ而シ若シ前同様ノ拂方少量ナルキハ則チ之  
ヲ低價ト謂フナリ  
第百五十七節 為換ノ割合ニ高低アルノ定則  
為換ノ割合ニ高低アルハ一般ノ物價ニ高低アルト其定則  
ヲ同フスルモノニハ郵便出發ノ日橫濱ノ如キハ之ヲ郵航ニ  
當テ若シ一地方ヨリ他ノ地方ヘ向ケ振出不為換手形ノ賣手ヨ  
リモ更ニ之ヲ需用セントスルモノ即チ買手又ハ望多キキハ則  
チ此為換ノ割合ハ必ス騰貴ナルベシ而シ之レト反對ノ場合ニ  
於テハ必ス低下ナルベシ蓋シ内外商人ノ間ニ拂方ヲ為スニ為  
換手形ノ方法ヲ以テスルモノハ其故他ニ非ス凡ソ外國ニ在ル  
商人ハ該外國ノ通貨ヲ以テ拂ハレ「一」ヲ欲スルモノナレ其  
之ヲ拂フモノニ於テハ固ヨリ探出ノ難アルノミナラス假令ヒ  
之ヲ探出し得ルトモ之ヲ輸送スルニ既ニ多少ノ運賃ヲ要シ又



危難ヲ犯サバハ得ガレキハ則チ寧ロ一片ノ為換手形ヲ送致  
 スルノ簡便ナルニ如カザルベシ夫レ然リ故ニ此地ノ諸商人若  
 シ或ル時ニ於テ其拂方ヲ為サントスル所其受領セントスル所  
 ヲリモ多分ナルキハ則チ其負債者ハ皆其手形ヲ買入レント  
 欲スベシ而シテ此際此地ノ商人ノ負債者ニシテ此地ニ在ル諸商  
 人ハ其手形ヲ高價ニテ賣却スルトテ得ベシ倫此地ヲ橫濱彼地ヲ  
則チ英ノ為換ハ騰貴ニシテ弗相場又之レニ反シテ一時此地  
ヲ以テ低下トスルト知ルベシ諸商人其受領ヲ要スルト其拂出ス所ヨリモ多分ナルキハ則チ  
 此地ノ債主ニシテ此地ニ在ル其負債者ヘ向ケ手形ヲ振出サ  
 ト欲スルモノハ其金額ヲ得テ之レガ恢復ヲ謀ル為メニ餘儀無ク  
 其手形ヲ低價ニテ賣却セザルトテ得ザルナリ此地彼地ヲ前同  
ノ為換ハ低下ニシテ弗相場  
 以テ騰貴トスルト知ルベシ  
 第百五十八節 此定則ハ變通スル所アリトス

危難ヲ犯サバハ得ガレキハ則チ寧ロ一片ノ為換手形ヲ送致

夫レ為換ノ定則ハ凡ソ如此シト雖モ種々ノ事状アリテ更ニ此  
 定則ニ感觸ヲ生セザルト換キ能ハズ是故ニ為換ノ景況ニ因リ  
 以テ此地ト彼地トニ於ケル貿易上ノ比較如何ヲ判断スルト又  
 ハ此地ト彼地トニ於ケル右比較ノ地位ニ因リ以テ為換ノ景況  
 如何ヲ發示スルト以テ立ニ特トト知ルベシ言ニ至テハ頗ル難  
 事ナリトス其故左ノ如シ

第一 彼地ニ引負アル商人ハ為換手形ヲ買入レル代リニ此  
價ニテ彼地ノ為換ヲ買ハ際ト知ルベシ其 彼地ニ在ル其懇親  
ノ者ニ依頼シテ此商人ヘ向ケ更ニ為換ヲ振出サシムル  
トアリ 即チ此為換ヲ知ルベシ其拂方  
 第二 甲地ノ商人乙地ノ債主ヘ拂方ヲ為スニ其人若シ之ヲ  
 低價ニテ買得レバ更ニ丙地ヘ向ケ為換ノ振出方ニ從事  
スルトアリ 即チ乙地ノ為換ヲ直ク買入レテ乙地ヘ向ケ



ルベト知

第三商人等ハ未タ必シモ其人ノ負債者各地ニ在ル無クト  
 モ其通信者へ向ケ為換ヲ振出ス一アリ即チ知ルベシノ  
 其他商人ノ相對ニ為スベキ仕拂ハ全ク之ヲ廢止スル一又之レ  
 有り且ツ証券取引所ノ相場師ニ於テ全ク金錢ヲ自己ニ受領シ  
 若シクハ其手形ヲ稍久シク所持スルガ為メニ勿論此手形ハ彼  
 等ニ於テモ其賤惠用ルニ足ラザル一ヲ知ルト雖氏屢々其換  
 手形ヲ振出ス一又往々之レ有リトス  
 第百五十九節 為換ノ割合ヨリ起ル所ノ利得并損失  
 凡ソ商人ノ為換手形ヲ振出スモノ即チ振ハ為換ノ高低アルニ  
 因テ毫モ利得ヌル所無ク又損失スル所無シトス蓋シ此人常ニ  
 金高ヲ其帳簿ニ載存スルニハ其居住セル場所ノ貨幣ヲ以テシ  
即チ英國ナレバ磅佛國ナレバ而ノ其振出ス所ノ人アル毎トニ

其員數上ノ價位ニ應シテ之ヲ其納金部へ登記スルノ事即チ百  
出ナレバ百磅千バチ「プロレン」ト記載スルノ類タルニ過キス例へバ倫敦ノ商人  
 普魯亞ノ「ゴエニク」バ「グ」ニ在ル商人ハ普魯亞國産ノ代價千九  
 百二十三「プロレン」ノ引負アリテ之ヲ並價即チ十九ニ  
 テ計算スレバ英貨百磅「ステーリング」ニ當ルトセシ今若シ「ゴエニク」  
 クス「バード」ノ商人ヲシテ其負債者即チ倫敦ノ向ケ一ノ為換  
 手形即チ一磅ニ付キ二十一「プロレン」ノ割合即チ並價ヲ超過  
 ル所ニテ此交換ヲ整へタルモノ即チ手形ヲ賣却ストスレバ此  
 商人ハ其實此為換取組ミノ致ス所ニ千五百「プロレン」ノ金高ヲ受  
 取ルベケレモ元來倫敦ノ商人ヨリ此商人へノ負額ハ特トニ千  
 九百二十三「プロレン」ナルニ付キ此商人ハ又忽チ倫敦ノ商人へ  
 對シテ百七十七「プロレン」即チ千五百ヲ引去リタル殘額  
 ノ負債者トナルガ故ニ此商人ハ隨テ毫モ利得ヌル所無キナリ



又「エック」ス「バール」グノ商人若シ此手形ヲ一磅ニ付キ十八「フロレ」  
ンノ割合即チ並價ヨリ低下ナリトスル所ニテ賣却スルトセン  
カ此商人ハ又毫モ損失スル所無クシテ更ニ此商人ハ倫敦ノ商  
人ヨリ受取りタル千八百「フロレン」ノ金高ヲ其納金部へ登記シ  
テ止ムノミ而シテ倫敦ノ商人ハ猶オ此商人へ對シテ百二十三「フ  
ロレン」即チ千九百二十三「フロレン」ノ引去リタル残額ノ負債者タルト依然  
改ラスシテ此金額ハ到底千九百二十三「フロレン」ノ負債額ニ向  
必ス消却セザル所ナリトスルノ類是レナリ○若夫レ為換ノ割  
合ニ因テ利得シ且ツ損失スルモノハ全ク吾人ヨリ手形ヲ振出  
サレタル所ノ負債者ト手形ノ持者トニ在リテ若シ為換ノ割合  
高價ナルキハ持者即チ買手ト損失シテ其受取人即チ金ヲ受取  
ト知ルベシハ利得スルナリ若又為換ノ割合低價ナルキハ持  
者利得シテ其受取人ハ損失スルナリ例へバ或ル持者タルモノ

倫敦ニ於テ千磅「ステール」リングノ拂方アリテ爾時為換ノ割合高  
價ニシテ一磅ニ付キ七「ターレル」ニ至リタルトセンカ此人ハ右  
千磅「ステール」リングノ負債額ヲ消却スルニ即チ英ノ為換ヲ買入レ  
ベシ餘儀無ク七千「ターレル」ヲ拂ハザルヲ得ス若又為換ノ割合  
低價ニシテ一磅ニ付キ五「ターレル」ニ至リタルトセンカ此人千  
磅「ステール」リングノ手形ヲ買入レテ前同様ノ負債額ヲ消却スルニ  
ハ僅カ五千「ターレル」ヲ以テ足ルノ類ニシテ通例受取人  
其持者ノ損失スルキニ於テ利得シ而シテ此受取人ノ損失スルキ  
ニ於テ其持者利得スルナリ又之レニ反シテ持者タルモノ為換  
ノ低價ニ際シテ利得スルキハ一方ニ於テ其負債者損失スルト  
ト知ルベシ此一段或ハ言論ノ盡クテ之ヲ明示スルヲ恐レシホ  
第一為換ノ割合高價ナルキハ持者人損失シテ其負債者利得  
ス○第二為換ノ割合低價ナルキハ持者人利得シテ其負債者



損失ス

右凡例左ノ如シ但シ百磅ノ並價ハ七百「タ」レルト假定ス  
 普魯亜ノ甲其貨物ヲ八百「タ」レルニテ倫敦ノ乙へ賣渡シタ  
 ルニ付キ故ニ乙ハ甲ノ負債者ニシテ甲ハ乙ノ債主トス供シ  
 甲ハ普魯亜ニテ現金ヲ受領スル為メニハ須ラク一ノ為換手  
 形百磅ノモノト假定シタルモノヲ為換ノ相場ニテ賣ラザル  
 ヲ得ス此際甲若シ之ヲ並價即チ七百「タ」レルニ賣ルキハ  
 金額ニ不足百「タ」レルヲ生スルモ若シ為換ノ割合ハ「タ」レ  
 ルニ付キ一磅ノ割合即チ所謂為換ノ高價ニ際スルキハ其金  
 高恰モ乙ノ負額ヲ支フニ足レリ得ルキハ故ニ貨物ノ金高  
 ノ謂故ニ乙ハ為換ノ高價ニ際シテ現ニ百「タ」レルノ利得ア  
 リトス何者並價ナレバ僅カ七百「タ」レルヲ得ベキニ更ニ其  
 高價ニ際シテ之ヲ八百「タ」レルニ賣ルヲ得レバナリ〇又

茲ニ丙ナルモノアリ倫敦ニテ百磅ノ貨物ヲ丁ヨリ買入レタ  
 ルニ付キ故ニ丙ハ倫敦ニ在ル丁ノ百磅ナル負債者トス此丙  
 ハ前段甲ノ為換手形ヲ買フテ丁へ拂方ヲ為ス故ニ丙ハ一  
 時此手形ノ持參人若シクハ持者トス若シ為換ノ割合前同様  
 ノ高價トスルキハ此丙ハ須ラク一磅ニ付キ八百「タ」レル即チ  
 積テ百磅ニ付キ八百「タ」レルニ至ル所ヲ拂ハザルヲ得ス若  
 又其割合低價ニシテ六「タ」レルニ至ルキハ六百「タ」レル  
 ニシテ此手形ヲ買得ルガ故ニ百「タ」レルノ利得アリトス  
 第百六十節 為換ハ場所ニ依テハ存在セザルアリ  
 予ノ所謂為換ノ割合トハ原ト懇親上若シクハ何等突然ノ事状  
 ニ因テ各人相互ニ着手セル事件ノ結果ニ非スシテ全ク夫ノ商  
 券即チ為換手形ノ別稱ニシテ凡ソ高賣上ニ用テ賣買ニ供  
 シ且其證券取引所ニ於テ公然之レガ取組ヲ為スニ付キ或ル



時限於テ一般ニ流行セル所ノ代價如何ヲ指シテ之ヲ言フナ  
リ然而ト此為換共一定ノ價位ノ存在スルハ特トニ西府即チ倫  
トノ如キホーノ間商賣上ノ關係甚タ活潑敏捷ニシテ雙方相互ニ  
振出ス所ノ商券即チ於ケル需要ト供給トヲシテ每日出沒止  
マザラセシムルニ足ル場所ニ限ルベシ例ヘバ「エミックススバード」  
ノ商人ハ商品ヲリスボン西斑ノ首府ヨリ商賣上ノ通信ヲ以テ仕入  
レルトヲ得ルハ猶オリスボンニ在ル商人ノ「エミックススバード」  
委託シ同所ヨリ送荷ヲ為シムルト曾テ異ナル無キトハ固ヨ  
リ疑ヲ容レザル必ナリト雖氏唯此場合ニ於テハ「エミックススバード」  
グノ商人ヲシテ其為換手形ノ買手ヲ「エミックススバード」ニ於テ見  
出サントヲ期望セシムルニ至テハ甚タ得難キノ事トス畢竟此  
地ト彼地トニ於ケル商賣上ノ關係稀少ナルヨリシテ其為換全  
ク存在スル無キハ理由ノ然ラシムル所ナレガ故ニ「エミックススバード」

「エミックススバード」ノ商人ハ送荷ヲ委託シタルリスボンノ商人ノ如キハ之レ  
ガ為ノニ餘儀無ク倫敦若シクハ「ハムバード」ニ在ル商家即チ此  
「エミックススバード」ノ商人得テ振出スベキ場所ヲ指示セザルヲ得  
ス何者右ノ兩都府即チ倫敦トリスボントノ間ナラテハ曾テ  
為換ノ存在スル丁無ケレバナリ勿論為換ハ甲地ヨリ乙地ヘハ  
存在スルアルモ之レニ非スシテ乙地ヨリ甲地ヘノミ存在スル  
ト之レ有リトス即チ「エミックススバード」共「ライプシック」ヨリ倫敦  
ハ現ニ為換ノ存在スルアルモ倫敦ヨリ「エミックススバード」共「ライ  
プシック」ヘハ曾テ之レ有ル無キガ如キ是レナリ  
第百六十一節 銀行其目的  
凡ソ商人ノ大商賣ヲ為スモノハ必ス許多ノ財本ヲ要シ是レ空  
シク其人ノ常ニ堅固ニ所持スベキモノナリ然ルニ此財本ノ守  
護タルヤ勤モスレバ非常ノ危難即チ指ヲ犯シ又多少ノ不便



即チ簿藏ヲ見ルノミナラス又莫大ノ金額ヲ計勘スルニハ  
等ヲ改メ類ヲ常ニ多少ノ時間ヲ費ヤスモノナリ故ニ是等現金  
ノ保存共計等ニ於ケル困難ヲ避クル爲メ一時商人等其住  
居ヲ定メタル場所ニシテ高賣上ノ關係太甚シク其事務繁劇ナ  
ル箇所ニ於テ銀行ヲ創建スルトヲ謀リタレモ更ニ其目的共性  
質ノ何物タルヲ知ラス又ハ此企業ニ付キ恐ルベキノ狂亂破産  
ノ如ク等騷立ツテ狂氣アルニ因テ或ハ無用不急ノ地ニ於テ強  
之ヲ創建シ或ハ其創建ノ場所ニ依リ却テ妨害ヲ爲スノ爾未往  
々之レ有ルニ至レリ於是乎銀行ハ全ク商人ヲシテ其現金ノ保  
存ト計勘トニ於ケルノ勞ヲ省カシムル爲メニ之ヲ企ツルト  
ナリ及ヒ其目的タルニ預ケ金ヲ受取リテ之ヲ保存レ且ツ之  
レガ仕拂ヲ實施スルニ在ル所以ヲ發見シ遂ニ第十五百紀ノ頃  
「ガ井ニース一伊都府ノ共セニース一ヴラント一首府ニ於テ二種ノ銀行ヲ

創建セリ其名稱一ニ云クバンク、ア、ヂリメンレ猶才英ノ「クリヤ  
リングバンクレ決算銀行ノ義ニシテ以下單ニ此譯語ヲ用井以ニ  
ニ云ク「バンク、ケ、ン、キ、ラン、オ、ア、ビ、レ」レ語佛「英語「イ、ン、ク」レ英手  
銀行ノ義

第百六十二節 決算銀行

此銀行ハ「ハム、バ、ア、ー、グ」共「アム、ス、ト、ル、ダ」ニ在ルガ如ク其信任セ  
ラレタル金額ヲ預リトシテ受取り且ツ之ヲ該銀行帳面ノ強  
ニ抄録シ置クナリ其後金ヲ預ケタル人ノ仕拂ヲ命令シタルキ  
ハ該銀行ニ於テハ此際其拂出スベキ金額ヲ此金葉ヨリ削除シ  
更ニ此金額ヲ受取リタル人ノ單葉へ移載スルノ手續銀行簿記  
知ル方ベシトニ因リ以テ此仕拂ヲ便ニスルヲ要シテ已ムベシ該銀  
行ハ前段保存トシテ信任セラレタル金額ニ向テハ一切其利息  
ヲ拂一ト無ク而シテ其預ケ人ハ更ニ之ヲ要求スルノ権理無シト

歳  
省



ス是也他無し其人苟モ斯ル金額ノ仕拂ヲ為サントセバ餘儀無ク之ヲ自存ニテ保存セザルヲ得ス苟モ如此クナルキハ則チ毫モ其利息ヲ收ムルニ由シ無キト同一理タルノミナラス其人ハ其金錢ヲ銀行へ預ケ置クハ恰モ之ヲレテ自己ノ手中ニ在ラシムルト同一ナルノ利アルニ於テオヤ然而ノ詎銀行ノ其預ケ人ニ於ケルヤ多少ノ勤務ヲ與フルト謂ツベシ何者其此人ノ金錢ヲ保存スル一層堅固ニシテ且ツ其仕拂ヲ為スノ勞ヲ省ク所アレバナリ但シ詎銀行ノ有用ナルハ持トニ其創建セル地方ノ商人等ニ限ルモノトス何者其金高ノ運轉送致ハ全ク口上ノ命令ノミニシテ未タ曾テ書面ノ命令ヲ以テセザレバナリ畢竟書面ノ命令ハ容易ニ偽造等ノ患ヲ免レザルヲ以テテ故ナリ

第百六十三節 銀行ノ勘定貨幣

銀行ノ設置アリシ後政府其貨幣ノ性合ヲ總括スル一即チ舊貨幣

減造シテ更ニ不當ノ新貨ヲ屢々之レ有ルヤ廠裏預ケ金シタル人ハ其銀行へ預ケタル貨幣ヲ引出スニ到底名面ノ價位ヨリモ輕量ナルモノ即チ舊貨幣ニ非ハ一ナレモ其ヲ以テスル一チ肯セスレテ更ニ其銀行へ信任シタル金高ノ實價ヲ要求スルノ權理アリトス故ニ銀行ノ是等諸人トノ勘定ハ依然舊時ノ貨幣ヲ以テスル一チ履行シ而ノ別ニ混合貨幣即チ新貨ヲ以テ新規ノ勘定ヲ始ムルキハ其誤リヲ受ケ易キガ故ニ爾後右等諸人ノ新貨幣ヲ以テ預ケ方ヲ為スキハ銀行ニ於テ常ニ古來ノ計算法即チ舊時ノ貨幣ヲ以テスル一ニ照準シテ其金高ヲ減少スルナリ斯ル場所ニ於テハ銀行ノ勘定貨幣ト通用貨幣トノ間必ス價格ノ差異ヲ見ルニ至レリ是レ昔時大坂銀主ノ諸取引類ニシテ其理由蓋シ之レトス此事ヤ夫ノ既造貨幣ノ價位ハ一ニ其量目ト性合トノ正確ナル名稱ニ基ク所以ノ實復タ以テ徴スベキノミ故ニ銀



行タルモノ常ニ通貨ノ新種類ヲ辟避シテ更ニ古ルキ銀貨若シ  
クハ銀棒ノ丁寧ニ試験ヲ經タルモノヲ受取ルモノハ豈ニ智ト  
謂ハザルベケンヤ畢竟此際金貨ニテノ預ケ金ヲ受取ル銀行ハ  
一亦トシテ存在スルヲ聞カス蓋シ銀行ノ重ニ金貨ヲ預カルモ  
ノハ其所以用實ニ虧ントス何若金貨ノ蓄藏ト仕拂トハ之ヲ銀貨  
ニ比スレバ大ニ煩勞ヲ省ク所以アレバナリ貨者ノ蓄藏仕拂ハ謂フ金  
其他ニ於テ煩勞ヲ省ク故ニ人容易ニ之ヲ銀行へ預クルト爲  
サス是レ其所以ナリト然レモ此論稍奇解ナルニ似タ  
ト亦云爾

以上陳スル所以箇條ハ特トニ往時ノ諸銀行左ニ羅列スル所  
ノモノニ適用ス即チ千六百九年「アムストルダム」千六百十九  
年「ハムバーク」千六百二十一年「ローレムバーク」千六  
百三十五年「ロットルダム」「ド」チ「ソ」ラ「ン」ニ於テ創建セルモノ是レ  
ナリ但レ當今通用貨幣ノ制其互ニ得ルニ是等事状ヲシテ大

ニ改新スル所アラシメタリ前段銀行ノ内其ハムバークニ在  
ルモノノミ獨リ存在セリトス

第百六十四節 手形發行銀行

手形發行銀行トハ其預リ金額ノ受領証トシテ手形即チ銀行手  
形ヲ其預ケ金シタル人へ渡ストニ從事スルノ銀行ニシテ古昔  
手形ハ唯一定シタル金高ト極テ一磅又ハ五磅ノ記載ノミアリテ  
預ケ金シタル人ノ名前ハ之レニ記載セス斯ル手形ノ持参人ハ  
都テ其手形面ニ在ル金高ヲ要求スルノ権理アリトス蓋シ此銀  
行ノ手形ハ其仕拂方ヲ便ニスルト支ノ決算銀行即チ佛ノ「バン  
ク、ア、ギリモン」ニシテ日貝曼ニ於テハ之ヲ「ジ、ロ、バンク」ト云フ  
ヨリモ一層勝レリトス何者彼レハ他へ譲渡ヲ爲スニ其人身親  
カラ動作スルトヲ要スレ氏此レハ唯此銀行手形ヲ傳送スルニ  
因テ遠方ノ債主へモ仕拂ヲ爲ストヲ得レバナリ但シ斯ル銀行



若シ其手形面ノ金高ラ餘リ小數ニシテ僅カ一ターレ  
レン程ナラシムルキハ則チ之ヲ計勘スルニ多少ノ時間等ヲ費  
ヤスト猶オ現貨ヲ計勘スルガ如クニシテ遂ニ此銀行ノ便利ハ  
多少減損スルニ至ルベケレモ此事無キキハ則チ人皆此手  
形ヲ授受スベシ是レ他無シ其能ク現貨ノ保持ト之ヲ計勘スル  
ノ煩勞トヲ省クアレバナリ若夫レ預ケ金シタル人決算銀行共  
此銀行ヨリ其預ケ金ノ利息ヲ要求スル能ハザル所以ヲ知ルニ  
至テハ其事甚ク難カラス何ゾマ是レ素ヨリ此人銀行へ金ヲ貸  
シタルノ謂ニ非ス且ツ銀行ハ此人ノ為メニ肝腎ノ勤務ニ服従  
スル所アレバナリ  
第百六十五節 預リ金ヲ銀行ニテノ使用  
夫レ右二種ノ銀行へ預ケ金シタル人ハ之レガ為メニ其便益ヲ  
収ムルト如此クナルキハ則チ却テ是等ノ銀行へ何カ拂

遣ハス所アルベシ畢竟是等ハ性時初發ナル銀行ノ種類同様曾  
テ政府ノ恩惠ヲ以テ預ケ金ノ場所若シクハ仕拂ノ官府ヲ興建  
シタルノ比ニ非ザレバナリ然而ノ凡ソ銀行ノ主者国立銀行若  
シクハ通常銀行主ハ其勤務ニ於ケル報酬ヲ受領スル代リニ既  
己ニ其預リ金ヲ左ノ兩様ナル有益ニ向ヒ使用スルノ権理ヲ有  
セリトス即チ之ヲ他へ貸附ケテ利息ヲ取ルトニ非ザレバ則チ  
之ヲ以テ為換手形ノ割引ニ從事スル是レナリ凡ソ銀行ハ諸人  
ヲシテ永ク其金ヲ預ケシムル為メニ苟モ其信任ヲ保全スルニ  
堪ヘタル便宜ノ諸取扱ニ着手スルヲ以テ其職掌トスルモノハ  
是ヲ以テノ故ナリ是故ニ銀行ハ互シク借主ノ保固上ニ於テ善  
否如何ヲ審察シ到底其良好ニシテ且ツ價位アル抵當物ニ向テ  
之ヲ貸附ケ而メ其為換手形ヲ割引スルニハ又到底負債主裏書  
人共振出人ノ善良ナルモノヲ擇ンデ之レニ從事スベシ然而ノ



銀行ハ又宜シク預リ金主タルガ故ニ其預リ金ノ需要アルニ臨  
ンデハ何時ニテモ之ヲ償還スルノ擔任アルヲ深思セズンバ  
アルベカラザルナリ蓋シ此預リ金ヲ使用スルノ權理アルニ因  
テ其擔任ハ片時モ輕減セラル、所アル無シ而シテ此擔任ハ却テ  
之ヲ重新シ且ツ之ヲ確定スル所アルモノトス

第百六十六節

然リト雖モ該銀行ハ常ニ其財本ノ若干部分ヲ使用スルヲ得  
ルモノトス畢竟預ケ金シタル人部テ一時ニ其預ケ金ヲ引出  
トト又此後更ニ人ノ預金ニ從事スルモノ無キト至テハ苟モ  
銀行事業ヲ創起シタル高賣諸人ノ願要(即チ身親カラ金錢ヲ保  
持シ若シクハ之ヲ計斯シ肯セザル)情依然連續止マザルノ  
間ハ如何シテモ危懼スルニ及バス此連續止マザルノ願要ハ常  
ニ商人等ヲシテ其金錢ヲ銀行ニ拂込マシメ且ツ手形ノ主者ヲ

ラテ亦同シク其金錢ヲ之レニ安置セシムルニ至レバナリ此事  
ニ就テハ手形發行銀行ハ他ノ決算銀行ヨリモ稍自由ヲ得ルモ  
ノトス何者甲銀行ハ其借主ニ付典スルニ必シモ現貨ヲ以テセ  
スシテ其手形ヲ以テスルヲ得恰モ是等借主ノ現ニ其金錢ヲ  
預ケタルト毫モ異ナル所無ケレバナリ供シナガラ此際該銀行  
ハ又常ニ其地方ノ形狀其關係ニ於テ多少ノ熟知慎重ノ檢覈ヲ  
要シ到底其預リ現金ト發行手形トノ間ニ存在セル割合如何ヲ  
精確ニ了知スルヲ期シテ止ムベシ

第百六十七節

銀行手形ノ價位下落スル  
若夫レ銀行手形ノ額數其程度ヲ超過シ而シテ一般ノ人民其高賣  
止ニ要スル所ヨリモ過分ニ所持スルキハ則チ其持者人ハ忽チ  
銀行ニ就キ之ヲ實驗スル(即チ金錢ニ引換ヘル)ヲ需要スル  
ニ至ルベシ苟モ是時ニ當リ金錢ノ需要該銀行ノ所持スル所ヨ



リモ過分ナルモハ則チ該銀行其預リ金高ニ於ケル保固ヲ供給  
セントスルモ遂ニ無用ニ屬シ其債主タルモノハ更ニ其金錢  
願要ニ於テ毫モ輕減ノ感觸ヲ起サザルニ至ルベシ而シテ該銀行  
ノ右願要ニ充ツル能ハザルニ及ンデヤ債主等ハ苟モ其金錢ヲ  
得ル爲メニ其手形ヲ低價ニテ賣却ニ供スベシ於是乎此手形ノ  
價位頓ニ下落スルハ舍テ論セス其持券人タルモノハ更ニ該銀  
行ヲ相手取り之ヲ法律ニ正シ遂ニ之ヲシテ破産ノ點ニ歸著セ  
シムルモ未タ知ルベカラザルナリ此時ニ當テヤ獨リ特別ノ處  
分若シクハ裁判ノ推辭ヲ受テ政府ヨリ指授スルノ一舉即  
チ英ニ於テ昔時<sup>ソリスペンション</sup>、オフ、バンク、アクト<sup>銀行條例ノ施</sup>  
義ニシテ即チ銀行<sup>ヲ一時保護スル爲メ政府ノ類</sup>アリ以テ能ク該銀行ヲ救  
護スル<sup>一</sup>ヲ得ルト雖モ此場合ニ於テハ其手形ノ價位常ニ下落  
スルヤ必セリ苟モ如此クナルモハ則チ其持券人ハ此手形ヲ所

持スルノ間<sup>并該銀行政府ノ無任保護ニ因リ其勢力ヲ有シ以テ</sup>  
其債主ノ實驗セル損失ヲ顧ミスレテ只管堅固動カスベカラザ  
ルノ間<sup>ハ其下落スル丈ケ損失ヲ召キ其不便勝テ言フベカラザ</sup>  
ルモノアリ

第百六十八節 國外并國內ノ高賣

世或ハ高賣ノ都テノ區別ニ於テ其重立タルモノヲ遺セル  
即チ高賣ヲ國外ト國內トノ二種ニ區別スル是レナリ國內ノ高  
賣トハ其社會ノ仲間<sup>即チ一國</sup>ノ内相互ニ賣買ニ從事スル<sup>一</sup>ニ  
シテ國外ノ高賣トハ諸國人民ヲ相手ニシ彼等ヨリ買入レルニ  
非サレバ則チ之レニ賣出ス<sup>一</sup>ニ從事スル<sup>一</sup>ナリ勿論各國ノ政  
府共許多ノ論者ニ於テ頻リニ意ヲ國外ノ高賣ニ注クト雖モ又  
此レク思考ヲ加ヘ國內ノ高賣ハ却テ國外ノ高賣ヨリモ甚タ緊  
要ナル所以ヲ察セズンバアルベカラザルナリ何者<sup>假令ヒ其國</sup>



民物品ヲ國外ヨリ買入レ更ニ之ヲ其自國人民へ賣却スルハ所  
謂國內ノ高賣ナル部中ト看做スベカラスト云フテ許容スル  
ニセヨ凡リ其國其自國人民ニ得セシムル所ノ第一必要ナル物  
品ハ歐洲各國其國外ヨリ引出ス所ノ物品ニ超過スル一殆ソド  
十倍ノ多キニ及フ所以ニ至テハ其事猶オ信然ナリトスベシ蓋  
シ通例吾人ノ生活上ニ於テ消費スル必要物品ノ總金額ハ之ヲ  
奢侈ノ目的ニ於テ消費スル所ノ總金額ニ比スレバ遙カニ其右  
ニ居ルモノニシテ到底奢侈ノ物品ハ特トニ社會中ノ上等階級  
限リテ必要トスルアルヲ免レザレバナリ夫ノ北日耳曼ノ如キ  
國中麥酒ヲ飲ムモノ一千人ニ下ラザレバ葡萄酒ヲ飲ムモノハ  
僅カニ一人ニ止マリ麥酒ハ該國ノ產物ナレバ葡萄酒ハ否ラス  
又人百ターレルヲ以テ陶器ノ代ヲ拂フアルモ其磁器ニ於ケル  
ハ猶オ一ターレルニ及バザルアルモニ器大知精廉ノ別諸人ノ

經濟の基礎

屋シク徴スベキ類例ニシテ即チ麵包肉類牛乳牛酪薪炭麻布通  
常毛布其地諸物産ノ凡リ其自國ノ用ニ供スル所ノモノハ其金額ノ  
上ルテ他ノ東西印度地方ノ物産ヨリモ著ルンク倍蓰セリトス  
而ノ凡リ華美ナル材料ノ我國ニ持来タスモノハ大抵國外ヨリ  
シ而ノ是レ特トニ社會中ノ上等輩ノミニ賣却スルテ得ベシ  
畢竟第一ニ記載セル諸物品包即チ麵其他ヲ消費スルモノ各々千人  
ニ下ラザルキハ此際他ノ國外ヨリスル物品ヲ用ルモノハ漸  
ヤク百人位ニ及ブノ割合ナルベシ曾テ英國ニ於テ一人一歳費  
ス所ノ中等金高ヲ算定シテ三十磅トセシガ該國二千五百万人  
ノ住民ハ國內ノ高賣ニ因テ一歳消費シ且ツ流通セシムル所セ  
億五千万磅ノ金額ニ及ベ一方ニ於テ世界各國相手ニ從事セ  
ル英國ノ高賣ハ漸ク五千四百万磅ヲ輸入スルニ過キストス因  
是觀之國內ノ高賣ハ之ヲ國外ノ高賣ニ比スレバ一層緊要ナル



知ルベキナリ

第百六十九節 經濟ノ商賣

國外ノ商賣ハ其物品ノ賣レル程其國ノ產物(土地若シクハ工藝上ノ物産)ニ於ケル交換ニ成立ツモノトスルニ非ザレバ則チ其國人ノ從前買込ミタル外國ノ產物ニ於ケル貿易ニ於テ成立ツモノト考定セザルヲ得ス故ニ國外ノ商賣ヲ區別シテ一ハ相當ナル國外ノ商賣ト云ヒ一ハ經濟ノ商賣ト云フナリ蓋シ歐洲各國ニ於テ植民地ノ商賣ハ之ヲ相當ナル國外ノ商賣ト經濟ノ商賣トノ兩間ニ在ルモ、是レ其商賣大抵其母邦タルモノ其地ノ產物ヲ買入レルハ都テ之ヲ後日再ヒ賣捌ク為メナルニ成立ツモノトシ若シ植民地全ク其母邦ノ體部ニ在ル母邦地トシテハ則チ相當ナル國外ノ商賣ナル性質ヲ具ヘ而シ之レト反對ノ場合ニ於テハ英國ノ更ニ經濟ノ商賣ト思考

ベキナリ

第百七十節 動作共引請ノ商賣

商賣ヲ分ツテ動作共引請ノ商賣トナスト屢々之レ有リテ凡ソ商人ノ買入方ヲ業トスルモノヲ引請ノ商賣ト云ヒ又其賣捌方ヲ業トスルモノヲ動作ノ商賣ト云フナリ一説ニ動作ノ商賣トハ九リ其國民他ノ國民ニ其商賣上ノ物品ヲ輸送スルノ商賣云ヒ又引請ノ商賣トハ其國民商賣ヲ自國ニ買込ムカ若シクハ其自有商品ヲ他ノ國民ヨリ賣捌カルカ、カノ商賣ヲ云フト

第百七十一節 庫納共自由港市ノ商賣

自國都府ノ外國ニ於ケル商賣ヲ分ツテ庫納ノ商賣共自由港市ノ商賣トナスハ又尤モ其理由アルヲ見ルニ足レリ凡ソ商賣ノ都府ハ通例品物ヲ外國ヨリ買入レルハ後日再ヒ之ヲ自國ニ賣捌ク為メニ於テセルモノアリ此レ之ヲ名ケテ庫納ノ商賣ト云



而ノ是等都府商品ヲ外國ヨリ買入レテ更ニ之ヲ他ノ國へ賣  
捌クトニ從事スルモノアリ所謂自由港市ノ高賣是レナリ此高  
賣ハ富實ヲ要スル下其之レニ因テ利得スル所アルヨリモ一層  
甚シトス是レ特トニ其國固有ノ富實盛ニシテ其國內ノ商品  
ヲ買入レテ外國へ輸出セントシ及ヒ其國民ノ爲メニ外國商品  
ヲ買入レル所ノ財本ヨリモ遙カニ超過シタルノ際ニ起ルモノ  
ニシテ且ツ此際特トニ充分誘導スル所ノモノアリ其商人ヲ  
テ寧口其財本ノ有餘ヲ若シ此人ノ之ヲ庫納高賣ニ使用セ  
ルトニ能ハザル程ニ自由港市ノ高賣ニ使用スルノ決断アラシ  
ムルノ曰ニ成立ツモノトスルナリ  
第百七十二節 遠ク海ヲ越ヘテ外國へノ高賣ニ從事スル下ヲ  
以テ一層ノ便益ト信スルハ誤テリ  
コレ高賣ハ都テ信任ヲ置クハ其固共拂方ノ精確及ヒ賣買上ニ

其財本ヲ使用スルノ巧手如何ニ準シテ其レテ其利潤アルモノ  
ナリ凡ソ人ハ一面識ヨリモ從來知音ノ者ハ輒スク其信任ヲ  
置ク即チ金類モノニシテ且ツ苟モ此事ニ付キ是等諸人ノ地位  
ハ其動作ノ景況トニ於ケル報知ヲ得ント欲セバ其事甚タ容易  
ナルノ實アリ故ニ凡ソ買手タルモノ其商人ノ居住ヲ距ル下彌  
近ケレバ則チ賣買ノ事件ハ彌々整頓スルニ至ルニシテ又商人  
タルモノハ常ニ其品物ヲ近隣ノ人へ賣ル下ヲ擇ムニシテ畢竟其  
近隣ノ人ニ於ケルヤ其置クベキ所ノ信任果シテ幾許ナルヤ及  
ヒ拂方ヲ得ルノ容易ナル下ヲ熟知スル所アレバナリ且又商人  
ハ其品物ヲ自宅ノ近隣ニテ賣捌ク能ハザルノ事アリ然後始メ  
テ更ニ遠在ノ得意先ヲ求ムルモノニシテ其之ヲ近隣ニ賣ルハ  
常ニ低價ヲ以テスルモ遠在ノ得意先ニ於ケルハ常ニ高價ヲ以  
テスルモノナリ因是觀之夫ノ商業ヲ論スルモノ尋常ノ考案ヲ



下シ遠ク海ヲ越ヘテ他國ニ往キ高賣ニ從事スルヲ以テ一層ノ  
便益ナリト想像スルニ至テハ全ク誤テリト謂フベシ要之商人  
タルモノハ苟モ其財本ヲ其込傍ニ用ヰルヲ得ル以上ハ此人  
決メ之ヲ遠在諸方ニ使用セザルヤ必セリ今夫レ此人ニシテ苟  
モ其込隣ノ高賣ニ從事センノカ既ニ其拂方ヲ受領スルニ其  
快速勝テ言フベカラス然ルニ若シ之ヲシテ遠國ノ高賣ニ従手  
シ其代價ヲ得ルニ餘儀無ク六箇月<sub>即チ最速地ヲヨリノ久</sub>  
ヲ待タザルヲ得ザランカ此際得ル所ノ利益假令ヒ百分ノ  
二十ニシテモ之ヲ此ハ其代價ヲ一箇月前ニ受領シ僅カ百分ノ  
利益ヲ得ルニ比スレバ猶オ其損失ヲ取ルノ憂アルヲ昭々蔽フ  
ベカラザルナリ

經濟問答說卷之二終



